

第三編 宗教々育の實際

總數	七九三	一〇〇・〇%
佛壇の有無	有	七二七
	無	三九
	不明	三七
		九〇・四%
		四・九%
		四・七%

無いといふものゝ中「ありません但し私の家は佛教信者ではありません」といふのがあつたが、大體は佛教信者の家庭である。次に不明三七の中には、答へざるものが三〇名あつたが、これ等は箆笥戸棚の上などにあるものを、佛壇といふ問ひには答へなかつたものと見る事ができる。故に佛壇の無いものは全體の五%のみであると見てよい。

次に朝夕の禮拜であるが、一日中に於て禮拜を行ふものが八八%、行はざるものは僅か七%である。

總數	七九三	〇
禮拜の行不	施行	六九八
	不行	五七
	不明	三八
		八八%
		七%
		五%

施行するものゝ中、前の問ひに對して「佛壇はありません」として、次の問ひに對し「おがみます」と答へたものが二〇名——六九八名中——あつた。即ち

「私の家には佛壇はありません、朝だけ神様をおがみます」「アリマセンガトダナノ上ヲホトケサマト思ッテオガンデキマス」(十三男)「家になくつても田舎のお寺にあります、家に佛がないから寺でおがみます」(十四男)等。

の答に現はれてゐる如きの類であつて、これ日曜學校等の教誡によれる影響の現れと思ふ。

次に禮拜を行ふ時刻であるが、唯「おがみます」と答へ時刻の不明なるもの六八%あるが、これを除いては朝禮が最も多く一八%を占めてゐる。朝夕の二回行ふものこれに次ぎ、夕方の禮拜は最も少い。即ち次の如し。

總數	六九八	一〇〇%
朝	一二六	一八%
朝夕	七六	一一%

第二章 家庭に於ける信仰狀態

第三編 宗教々育の實際

禮拜施行の時刻	不定	八	一五	二%	四七三	六八%
不明						

この家庭佛前の禮拜は大體に於て家庭の感化即ち模倣によるものが多いやうであるが、又日曜學校等の教誡の力が大いに與つてゐる、所謂屈從によるものも認められる。

十一男「おがみます、わすれ、時も時々あります」

十二男「私だけ、朝おきて顔をあらうとすぐほとけ様をおがみます、又晩は夕飯をたべる前におがみます」

十四女「朝晩にお父さんやお母さんはおがみます、私は時々思ひついた時におがみます」

右の「わすれる時もある」「思いついた時」といふのは、日曜學校等の教誡を指してゐるもので、又一家庭の中で「私だけ」一人といふのは日曜學校等による感化即ち屈從によつたものである事は明である。

次に、老寄りの敬虔なる態度は家庭の信仰に餘程の感化を與へ、力を有してゐる

ものである。即ち次の例によつて明示されてゐる。

十三女「家デハ毎日オバアサンヤオヂイサンガ朝晩オガミマス、又私ノ兄弟又父母ト朝オガミマス」

同女「家中皆ではありません、おぢいさんとお父さんとお母さんと兄さんと私だけです」

次に、何といふても、家庭の宗教々育の根源は母であつて、その宗教的熱心の如何によつて家庭全體——少くとも子供には——に大影響がある。即ち、

十二女「母と私とおがみます」

十四男「母が深信家なので如何なる時もおがみます」

右の十四男の告白は、何と力づよい頼もしい言葉ではないか。信心深い母があつて初めて「何時もおがむ」といふ敬虔なる子があるのである、偉大なる母の力よ。

次に一家擧りて禮拜をなすものの中には

十四男「家内中おがみます」

十三女「私のうちではみんなおがみますが、たつた一人あります、それはぼうやであります」等。

がある。「たつた一人あります、それはぼうやであります」とは、實に天真爛漫た

るものではないか。

最後に、祖先の命日の禮拜は、朝夕の禮拜と共に家庭宗教々育として力あるものである。即ち、

十三男「朝はいつもおがみます、平日はよるはおがみませんが一日十五日祖先のめいにちはよるもおがみ  
ます」

十五男「おめいにちの日」等

である。家庭宗教々育として祖先の命日の献花焼香禮拜等の獎勵は必要なる事である。

因みに、禮拜を全然行はざるもの、中その三分の二は佛壇があつて且つ行はざるものであるが、餘の三分の一は佛壇なきが故に行はざるものである。この點は家庭宗教々育上一考に資すべき點である。

## 後編 日曜學校の經營法

### 第一章 日曜學校の使命

近代文明の進歩發達は實に目醒しいものであるが、これ科學的文明であつて、總てのものを理智の光によりて解決しやうとする。この科學萬能主義に心酔した結果は宗教を蔑視し或は迷信と同一視してこれを排斥するものもある。然り迷信は完全なる高等宗教の獅子身中の蟲であるからこれを排斥しなければならぬ。けれども、科學の進歩は却つの宗教に強き根柢を興へ益々力あるものたらしめた。即ち宗教は宗教的能力といふ一種特別なる能力の作用であると見られて居つたものが、心理學や兒童學の研究發達の結果は、人は誰でも生るゝと共に宗教的本性を有して居るといふ事が明瞭になつて來た。而して現に地球上に棲息する民族中

果して全然宗教心なく宗教的行爲なきものありやといふ久しき間、學者探究家の間の疑問であつたものも、その多數の意見は終に全然無宗教的なるものはなしとする事に歸着した。かく宗教は普遍的のものであつて人間の本性として既に存してゐるものであるから、宗教は教育すべきものといふ事も亦一般に認められて來た。

翻つて現今の教育状態を観るに前述せる如くに學校と宗教とは全然分離され、學校教育なるものからは全然宗教は取り去られてある。現今の教育は人智を總ての標準として合理的の事のみ限りて授けられ、感情意志の陶冶もこの範圍を出づることができないのである。試に現代の青年を見よ、所謂「物識り」なるものは實に多いが、血あり涙あり、力あるものは少いではないか。現代の要求する人は頭の人といふよりも眞に活ける力ある人でなければならぬ。即ち現代の教育の缺陷は知識の傳授に偏して「人間の教育」が出来てゐないといふにある。

大凡、教育なるものは人性全般の陶冶を旨とすべきである。バトラー博士は兒童の精神的遺産を、科學的遺産、文學的遺産、審美的遺産、施設の遺産及び宗教的遺産の五となし、これ等の所有をして漸次に修正し順應せしむるのが教育であると説いてゐるが、實に然りである。即ち科學文學等を教ふると共に人間の本來具有するその宗教性を刺戟し誘導して完全なるものたらしむることは、「人間の教育」を完成する上から必要なることである。然るに現今の學校教育にはこれを望むことは不可能であり、又家庭にありては望む事ができ、且つ最も感化力も多く持つてゐるが、けれども組織的にこれを施すべき所ではない。依つて學校及び家庭以外にありて組織的に特別なる宗教々育の機關がなければならぬ。日曜學校は實にこの要求に應ずべき使命を有してゐるものである。

人は皆宗教性を有し、これを完全に發達せしむべく教育するのが日曜學校の目的であり使命であることを述べたが、然らばこれを如何にして發達せしむるか

いふ問題に逢着する。吾人の宗教性を發達せしむる事は、吾人の本具の佛性を障害なく培へ、これを開發する事であればならぬ。即ち佛の智慧と慈悲とに活くる完全圓滿なる人たらしめんとするにあるのである。これには佛を知り、佛を信じ、佛の教を遵奉しこれを實踐する事によつてのみ達せらるべきである。此處に於て宗教々育は教育的たると共に宗教的意味があるのである。

佛の完全への到達は、單に教理を理解し經典を讀むことができることによつて出來得るものではない。唯々不斷の進歩と無窮の向上とを要するのである。依つて日曜學校には卒業なるものはないわけである。日曜學校は子供の時ばかりで青年乃至は成人には無關係であるが如く考へ、日曜學校の効果を疑ふが如き人は誤も亦甚しいものと言はねばならぬ。寧ろ眞に宗教々育が施されるのは青年期以後にあるので、少年期にある間はその準備と見らるべきものである。けれども、羅馬は一日にして建設されるものではない。況や羅馬より偉大なる兒童の人格に於て

あやである。玉も磨かざれば光なきが如く、兒童の宗教性なる萌芽もこれを放任して置いてどうして立派な花を咲かせ果を結ばせる事が出來やう。少年期から宗教々育の必要なるはこの所以で、よしや日々の授業訓練より直接なる結果を得る事が出來なくても失望するの必要はないのである。須く目前に生さず萬歳を期すべきである。依つて日曜學校は搖籃より墓場に至るまでの靈的教育の大使命を有してゐる事を記憶すべきである。

上述の如く日曜學校は教育的宗教的の目的使命を有してゐるのであるが、又特殊的には保護的任務を帯びてゐる事をも忘れてはならない。機械的工業發達の弊害の一は家庭の破壊といふことである。屋内工業の行はれてゐた時分は、勞働者は假令細い煙を立てゝゐながらも、一家團樂の樂みの中に溫き生活をつゞける事ができたが、一度工場工業が盛んになるや、これは望み得られなくなつた。即ち父は勿論の事、母や姉までもその生計を助くる爲めに家庭を離れて工場で終日働か

ねばならぬ事となつた。此處に於て、家庭にこの道德的宗教的訓練は到底施すことは出来なくなつた。加之殺風景な冷き家庭に残された兒童は悪い環境の影響を受ける事が多い。依つて日曜學校はこれ等の家庭に代り宗教的道德的訓練を施すと同時に、消極的には彼れ等をして悪い環境から遠ざからしむるの責任がある。尤も、これは托兒場、晝間預所等の特別な社會的施設が施さるべきであるが、少くとも日曜學校にありてもその範圍をその環境によつては此處まで社會的に擴大することが必要だと思ふ。勿論これは特殊であるから、一般の場合にありてはその必要を認めぬであらう。

これを要するに日曜學校は宗教的教育的機關であると共に又特殊的には保護的の機關たるべく、従つて、單に教室内の教授訓練に止らずして、社會的にもその活動範圍を擴張し、社會的教化機關とも連絡を保つべき必要と使命とを有してゐるものである。

## 第二章 名稱及び規則

名稱 佛教徒の兒童教化事業として行はれて居るもの、名稱は種々雜多である。即ち、コドモ會、少年會、少年少女會、お伽會、兒童俱樂部、少年團、少年教會、日曜學校等である。

これ等は嚴密にいふときは多少各々その意味を異にすべきものであるが、現今の處は皆な殆ど同一の意味に於て用ゐられてゐる。けれども學校といふときは、一定の組織の下に一定の教課が施さるべき教育機關であつて、單なる「集り」とは區別さるべきものである。大凡、この種の事業は劃一的よりも寧ろ寺院の状態、土地の状況等により各々地方色に合つた組織の下に、その特色を發揮して行つた方がよいのであるが、これは又弊害も伴う。即ち、その經營者なり主任者の腕次第であるから一方に理想的のものが出来る半面にはコンマ以下のものも現はれるも

のである。その是非善惡は暫く措き今日の我が教化事業にありてはもう少し何等か連絡統一があつて欲しい。そして、單なる集會より學校的の組織に進めたいものである。

今は日曜學校の名を用ゐたが、宗教々育は必ずしも日曜とは限らないのであるから全然妥當性を帯びてゐない點もある。それで歐米では最近教會學校チャーチスクールといふ名稱を用ふべしと主張してゐる人もある。日曜學校といふのは基督教の眞似のやうでいけぬといふ議論もあらうが、これは今は論ずる限りではない。勿論我國では日曜は宗教的意味は有してゐないが、この日は學校官衙諸會社等の休日となつてゐるから、學校以外にありて特別に教育を施すのには最も便利な日である。この意味に於て、今は日曜學校の名を用ゐて置く。

規則 日曜學校を經營せんとすれば先づ規則を制定する事が必要である。規則を定めてこれに縛せらるゝやうな事があつてはならぬが、その事業に對する目

的方針を確定する上へに必要である。

規則を作るには一定した型がある譯ではない。場所、人間、時間等を考察した上へにこれ等に適合するものを適宜に定むべきである。それで名稱、目的、日時、職員、兒童の範圍、組の編成、教課、經費等の事は第一に定めなければならぬ。今は參考として宗教大學日曜學校の校則をあげて見やう。

第一條 宗教大學兒童研究會々則第三條ニヨリ本校則ヲ定ム。

第二條 本校ハ宗教大學日曜學校ト稱シ宗教大學内ニ設置ス。

第三條 本校ハ佛隨ノ聖訓ニ從ヒ兒童ノ靈的發展並ニ徳性涵養ヲ以テソノ目的トス。

第四條 本校ハ尋常小學兒童ニシテ入學ヲ申込ミ生徒章ヲ交附シタル者ヲ生徒トス。但シ特別ノ事情ノモノハコノ限リニアラズ。

第五條 本校ヲ卒業シタルモノニシテ校長ノ適當ト見認メタル者ヲ本校々友トス。

第六條 本校ハ校長一名主任一名常任教師若干名ヲ置ク。

- 一、校長ハ兒童研究會々長コレニ任ズルモノトス。
- 二、主任ハ常任教師ノ互選トシ校長コレヲ任命ス。

第二章 名稱及び規則

第三編後編 日曜學校の經營法

三、常任教師ハ研究會員互選ニヨリテコレヲ定ム。

第七條 一學年ヲ分チテ二學期トナシ四月ヨリ十月マデヲ第一學期トシ、十一月ヨリ翌三月マデヲ第二學期トナス。

第八條 生徒ヲ大別シテ男子部女子部ノ二トシ更ニ之レヲ細別シテ若干組トス。

第九條 每週午前九時ヨリ開始ス。

第十條 毎年一回若シクハ二回校内大會ヲ開キ又隨時ニ遠足運動會ヲ催ス事アルベシ。

第十一條 成績優秀ナルモノ及ビ他ノ模範トナルベキ行爲ヲナシタルモノニハ賞品若シクハ賞狀ヲ授與スル事アルベシ。

第十二條 素行不良ニシテ他ニ惡感化ヲ與ヘ改悛ノ見込ミナキモノハ諭旨退校ヲ命ジ又引キ續キ無届缺席ニケ月以上ニ及ブモノハ除名處分ヲナス。

第十三條 本校ハ生徒ヨリ月謝ヲ徵集セズ。

但シ特別ノ場合ハ實費ヲ徵集スルコトアルベシ。

第十四條 本校ノ會計ハ兒童研究會々計ニヨリテ之レヲ處理ス。

第十五條 本校々則ハ兒童研究會員半数以上ノ同意ヲ得テ之ヲ修正スルコトヲ得ルモノトス。以上

此處に一言すべきは、右の中「兒童の二ヶ月以上無届缺席の場合は除名處分を

なす」といふ一項であるが、これは兒童の管理及び事務の整理上大變よいが、然しこれを實行するには、かうしても兒童は優に集め得るといふ自信がなければ考へものである。元來出席を強制する権利も勢力もなく唯々兒童の自由意志にのみ任すべき日曜學校にありては、普通でさへ兒童を集むるに困難なるに、餘りに規則を嚴重にする時は兒童が減少するといふ憂がある。

第三章 設 備

日曜學校を經營する以上、その目的の示す所に従ひその教育を施すに十分なる設備を必要とする。その設備の主なるものとしては、學校内外の設備と學校設備用品との二に大別する事ができる。

一 學校内外の設備



學校内の設備としては教室と講堂とである。

**教室** 日曜學校たる以上組分けの數丈の教室は必要である。而して特別に完全な教室があれば最も理想的であるが、特別なるものがなくとも寺院には大抵座敷が澤山あるから適宜に用ゐる事ができる。若し別個の座敷がない場合には、幕を張つて區劃して適宜に教場を作ることが輕便である。

**講堂** 講堂は禮拜集會其他大會等の時に用ゐる爲に出來得る限り立派で莊嚴であつて欲しい。寺院では本尊正面の間を之に當てるとが最も莊重でよいと思ふ。次に校外の設備としては、運動場及び運動場内に於ける運動器具、洗面所、湯呑所等の設備である。

**運動場及び運動器具** 兒童を集める以上は十分に遊び得る餘裕のある運動場が是非必要である。此點に於て、寺院の境内は廣大であるから頗る好都合である。これに伴うて放課等の時間に使用する運動具が必要である。それは成るべく圓

體的のものがよい。即ち、紅白の運動帽、紅白の裋、ゴム毬、フットボール、繩引用の太繩等である。

因に、土臺、固定及び遊動圓木、ブランコ、鐵棒、砂場(幼時の爲めに)等の施設をして、兒童遊園となし平日もこれを開放するが如き事が出來れば、兩々相ひ俟ちて、社會的事業としても、兒童の感化上に於ても一層の效果を見るであらう。**洗面所及び湯呑所** 手足が汚れ、喉が渴いた時の用意の爲めにこの設備が必要である。特に戶外運動でも行つた後ちに於ては然りである。

## 二 學校設備用品

設備用品として重要なるものは、樂器、腰掛、教壇、テーブル、黑板、額、地圖、鈴、掛圖、唱歌用紙掛、申込書、生徒章、出席簿、記録等である。

**樂器** この樂器は諸設備品中最も大切なるものである。唱歌を教授し宗教情

操の培養には是非この設備が必要である。樂器としてはピアノを理想とすれども、價格の點に於て先づオルガンを適當とする。けれども手風琴、バイオリン等と雖もなさに勝る事は勿論である。

**腰掛** 兒童に相當する腰掛を必要とする。足のプランと下がるやうな大人の使用するものでは衛生上からも管理の上へからも避くべきである。而して大きい方の兒童の爲めには、この腰掛に相應すべき簡單なる机も備ふれば、何か筆記でもするに至極便利である。

**教壇及びテーブル** 教師が荷物を置き、又姿正を正する上へに教師用のテーブルを必要とする。且つ大きな教壇にあつては教壇も併せて必要である。

**黑板** 兒童の記憶を確實ならしむるには、單に聽覺にのみ訴ふることなく同時に視覺にも訴ふる事が肝要である。それにはこの黑板の設備が必要である。

**額** 兒童の情操を豊かならしめ、品性陶冶に資する爲め、風景、愛らしき動

物、偉人の肖像等の額を講堂及び教室に掲げて置くことが有効である。而して、風景は總ての室に通ずるも、動物のは幼兒の室、偉人の肖像は少年部以上の室に掲ぐるを可とする。

**地圖及び掛圖** 歴史及び傳記等を話し、教授する場合には、その印象を深からしめ且つ趣味の涵養を計る上へより、地圖及び掛圖を用ふる事が有効である。特に釋尊、元祖等の傳記物を話す時には、その御一代の行狀を年代順に連續的に作つて置いて用ゐることが非常によいと思ふ。

**唱歌用紙掛臺** 唱歌を教授する際に、一々これを黑板に書き、又兒童に毎回摺物を渡したりする免倒を防ぐ爲め、唱歌を一枚の大きな紙に書いたものを掛ける臺である。

**鈴** これは規律を嚴肅にする爲めに、兒童の出入の時、或は所要に應じて、合圖に鳴らすに使用するものである。

**入學申込書**　これは兒童の家庭、所屬學校及學年、年齢等を知る爲めと、又常方の趣旨を父兄に知らしむることが出来るやう、即ち二重の役をなすやうに作つて置くことを便利とする。

**生徒章**　これは、父兄の承諾を得て入學申込書を提出したるものに生徒となつた章として交附するものである。これは、出席通知簿を代用さすべく裏面に出席表の欄を設けて置くことが便利である。又校歌、校訓といふものゝ類をも刷つて置き、所謂通信簿を兼用せしむるのがよい。この紙質は厚く丈夫なるを可とし、體裁は小さくして優美に作るのである。

**出席簿**　生徒の出席及缺席率の統計を作り又 精勤者を控えて置く等、後日の参考に資する爲めに、毎回その出缺の點檢を記入すべき帳簿を是非造らねばならない。

**記録**　これは毎日の執行順序並に參考事項等を明細に記するもので、後日統

計を取り、又學校の變遷等を知る爲めに是非必要なるものである。

以上種々必需品を列擧したが一度にこれを用意することが容易でない場合には、先づオルガン、黑板、鈴、申込書、生徒章、出席簿、記録帳等を第一に備へ他は漸次に求めて行くやうにしたらよいであらう。

猶ほ、これ以外に教材及讚佛歌、並に一般兒童研究等の著書等を備ふるの要ある事は勿論である。

## 第四章 生徒

生徒は日曜學校に於ける中心であつて、如何に設備が完全しても教師が揃つても生徒がなかつたならば教育は成立せぬ。即ち生徒は教育の對象であつて生徒ありて初めて教育が具體化し實現されるのである。依つて生徒たるべき兒童に就きては十分に研究しこれを善く了解して置かねばならぬ。即ち兒童の特質傾向は如

何なるものなるか、この特質傾向に従つて如何に教育すべきか等の本質的研究が先づ必要である。而してこれが實際的としては如何なるものを生徒とすべきか、如何にしてその生徒を集むべきか等を考へねばならぬ。

この中兒童の特質傾向等は基礎論として詳述したから今は、生徒の範圍、生徒の集め方の二項目に就いて述べやう。

### 一 生徒の範圍

日曜學校の生徒としこれに一定の組織の下に宗教々育を施さうとすれば、先づ如何なる程度の兒童を生徒とすべきかといふ生徒の範圍を定めなければならぬ。

日曜學校の本來の性質理想からいへば生徒の範圍などはない筈である。即ち搖籃から墓場に至るまでが生徒であるべきである。現に米國の進んだ日曜學校にありては、生れると直ぐ生徒として日曜學校の中に編入し、續いて家庭を作つた後

ちに至つて居る。けれども我が佛教の如く未だ完全な教材すら制定されてゐない今日では事實困難であるし、又家庭以外に於ける特別の機關となつてゐる日曜學校では、嬰兒乃至幼稚園時代の子供は家庭にこれを委し、學齡期並に青年期の兒童を中心とし、これをその範圍とする事が實際上よいと思ふ。けれども寺院内に幼稚園でも經營してゐる所は例外でその園兒の年輩を以つてその範圍に編入する事は可能の事であり又望ましい事である。而して、此處に範圍を定めるのは決して教育そのものを限定するのではなく、その範圍内の兒童を中心として、弟妹父兄にその感化を及ぼすといふ事を忘れてはならぬ。換言すればその生徒以外の家庭の人と連絡を取る事に注意する事が必要である。

參考の爲め宗教大學日曜學校の實際方法を述べれば、七歳より十五歳までとし大體學齡期の兒童をその範圍とし、これ以上のものは校友となし日曜學校との連絡を保たしめて居り、又特別な訓練方法を講じてゐる。次に生徒となすものは、

入學申込書を提出し生徒章を交附されたものであつて、この生徒章の交附は、申込書を提出してから二回以上續いて來たものになすこととしてゐる、直ぐこれを交附すると、生徒章を渡した次回から出席せぬやうなものがあるから、これを防ぐ爲めかやうの方法を取つてゐる。又、一應年齢の範圍を定めてゐても兄弟等に伴はれて小さな弟妹も來るものがあるが、これ等は斷らずに適當に扱つてやる事がよいと思ふ。次に申込書を出さしめる事は學校と家庭との連絡上からも、事務の整理上からも必要のことである。

## 二 生徒の集め方

生徒を集めるといふことは容易に似て而も困難なことである。この日曜學校なるものが、世間から十分了解され重要視されてゐないこと、小學校の如く出席の義務責任を何等有して居らぬ事等の爲めに、日曜學校は子供を集めることには勢

力が微弱である。特に地方によると日曜學校へ行くものをば仲間同志で冷笑するが如き所もないではない。故に一面困難の點もあるが、元來この事業そのものが普遍的眞理を有する重要なものである事、寺院は何處でも地方との關係親密なる状態にある事、又兒童は本質的にこの種の集りを好むものである等よりして適當の方法を以つてするときは左程の困難もないものである。

兒童の集め方として一般的に考へる場合には大體二形式となる。即ち頓と漸とである。前者は、種々なる餘興又は兒童の好奇心をそゝるやうな派手な大會を開き成るべく一時に多くの兒童を集め、この場に於て日曜學校の宣傳を行ふて生徒を吸収する方法で、後者はこれと反對に最初は個人的に數名の近親のものから集めこの數名のものを中心として、その友達を互に勧誘せしめ、漸次に生徒を増加して行く方法である。前者は一時に多數の生徒を得るの得點があるが、早く冷め易い失がある。従てその根柢は自然薄弱たるを免れずして動搖を來し易い。後者はその

發展遅々として進まざるの感はあるが、堅實たる事を失はない。依つて鞏固なる基礎に立ち堅實なる發展を期するには、後者の漸進的方法による事を可とする。而して後者の方法に立脚して、これに前者の方法を併せ行ふ事は最も有効である。

更に、その一々の方法に就いて述べれば、先づ廣告をなすことである。學校の趣旨、所在及び開校の日時等を印刷ピラとして配附するか、或は大なき白紙に書いてこれを附近の要所に貼附する方法である。而して文字には振假名を附けて兒童に読み易からしめ、又日曜學校の校舍若しくはこれに關係せる兒童の好奇心を惹くやうな畫を書き入れる事は一層これを有効ならしむる。

次に大切な事は、所在小學校との連絡である。何といふても小學校は兒童に直接關係を有してゐるのであるから、これが了解を得て連絡を保つことが必要である。けれども地方によつては教員の偏見、若しくは土地の周圍の事情——對基督教の關係等——等の爲めに寺院に兒童を集める事に對しては餘り好意を持たない

所もあるから、よく周圍の事情その他を考察し日曜學校の本質を明にし彼れ等に徹底せしむる事が必要である。

次にこれと同時に、一般社會特に各家庭の主婦にはこの事業を宣傳し、理解せしめる事である。宣傳理解は事業遂行の最も必要なる條件たる事を忘れてはならない。若し學校側が反對しても家庭がこれを承認しないまでにして置く事が必要である。

最後に日曜學校全體の氣分である。この氣分を兒童と相ひ合致せしむる事である。若し日曜學校そのものが、兒童に何等興味を喚起する事なく何等印象を與へ得なかつたなら、廣告がいくら巧みでも、學校との連絡が十分であつても、宣傳が徹底しても子供は足を運ばなくなる。而してこの中心となるべきものは教師の愛と熱とである。

### 第五章 組の編成

兒童は各々その年齢を異にし能力に等差あるを以て、これ等を同一場所に於て同一の教材を以て教へ導くことは不可能の事である。此處に於て組分けの必要が生ずる。依つて以下組の編成に就いて述べやう。

#### 一 分級の方法

分級の方法にはその標準を年齢によるものと、學校の級別に依るものとの二がある。今、アーレン、ケー、ファウスト氏がその著「宗教々育指針」に於て、歐米の模範的級別として挙ぐる所を参考として示せば、幼稚部、少年部、中學部、高等部、家庭部の五に大別し更に數組に細分してゐる。

##### I 幼稚部

1. 搖籃名簿科 ○——三歲

2. 初學科 三歲——六歲

3. 幼稚部本科 六歲——九歲

##### II 少年部

1. 九歲——十歲

2. 十歲——十一歲

3. 十一歲——十二歲

##### III 中學部

1. 十二歲——十三歲

2. 十三歲——十四歲

3. 十四歲——十五歲

4. 十五歲——十六歲

第五章 組の編成

IV 高等部或は大人部

1. 大人聖書講義科
2. 教師養成科或は師範級

V 家庭部

以上の五部の中、興味あり且つ注意すべきは、最初の搖籃名簿科と最後の家庭部との二である。

搖籃名簿科は、基督教近世日曜學校に於て最も新しき趣向の一であつて、開校中出席し得ざるが如き極めて幼少の嬰兒、即ち三歳以下の如何なる嬰兒も生徒の一員として入校する事ができるのである。これは幼児が生れるや否や、その名を名簿に登録し、その部の部長は適當の時に至ればその嬰兒を訪問するのである。又その嬰兒の誕生日毎に學校に於ては、何等かの方法を以つて、この嬰兒を記憶すべき事を行ふのである。而してこれは家庭と教會と日曜學校とを聯合せしむる連

鎖となり極めて有效であるといはれてゐる。

次に家庭部は、矢張り最近日曜學校の附加物で新しき試みの一である。これは普通の日曜學校に出席する事の出來ぬ人、或はこれを欲せざる總ての人々、即ち醫師、巡査、軍人、船員、病院に勤むる人々、旅行者等に對する施設であつて、彼れ等に少くとも一週三十分間づゝ、その週の聖書學科を研究する事を約せしむるのである。

以上の分級は模範的といはれてゐる丈けに周到なるものである。けれども、かく一年毎に細く分級する事は大規模な日曜學校では出來やうが一般には望み得ない。特に我が佛教の如くその過渡期にあつて多く單級に依つてゐる現状では、到底一足飛びにそうする事は困難な事である。又一面から言へば、情操的陶冶が主となつてゐる日曜學校では一年毎の分級を用ゐなくても左程の差調はない。依つて最初は學年別に依るを便利と思ふ。而して、



I 幼年部——學齡迄

II 少年部

1. 下級——尋常三年迄

2. 上級——尋常六年迄

III 青年處女部——尋常科卒業以上

位に大別し漸次に細分することがよいと思ふ。而して生徒の集り具合により、年齢性別等を考察して隨意に分くべきである。右の例の場合にありて、若し幼年部の兒童が比較的大きいものが多い時は

I 幼年部——學齡前から尋常科二年迄

II 少年部下級——尋常科三、四年

III 少年部上級——尋常科五、六年

と分級した方が寧ろよいと思ふ。その方が兒童の特質能力等も相ひ似て居るか

らである。

## 二 分級の困難と救濟法

若し創立當初にありて、右の如く、三組乃至四組に分ける事が困難なる場合には、前述せる如く生徒の範圍を小學在校兒童と限定し、先づ三年をその限界とし、二組に分けるのである。若しこれも困難なる場合にありては、更にこれを限定し、三年或は四年以上六年までとし、先づ一組だけを編成し、次にその卒業生を以つて青年部を設け、更に下級部、幼年部と漸次に増設する方法を取るのである。これ甚だ姑息の方法の如くであるが三年の幼兒から十五歳位の青年期に入つた位までのものを一堂に漫然と集め數を以つて誇つてゐるが如きに比して、如何に優つてゐるか分からない。

これを要するに、兒童の精神過程及能力に従ふやうに教育を施さんとするには

是非組分する事を必要とするが、最初から完全を期する事は困難であるからして、一組から二組、大別より細別へ、即ち寡より多へ、粗より精へと漸次に進むべきである。

次に、この組分を實行するには、その分級の數に相應する教室と教師とを要する。教室に就いては前説して置いたが、若し擔當者が一人のみで他に教師を得られぬといふ場合に、二組以上の教授を如何にすべきやといふ問題が生ずる。これは時日を互に違へて行うことによつて解決せられる。即ち、土曜と日曜、若しくは日曜の午前と午後及び土曜の午後といふ具合に各組別々の時に行ふのである。青年部の如きは夜間開くことも可能である。かくすれば、境遇と精力とが許すならば、假令日曜の夜は休んでも、一人で四組に別々な教授が施されるわけである。次に又關寬之氏はその著「兒童學に基ける宗教々育及日曜學校」に於て複式編制を力説し循環式編制を提供してゐる。「即ち循環式といふのは、一教師が、本年は

「課程第一」を教授し、來年は「課程第二」を、再來年は「課程第三」を教授し、其の翌年は再び「課程第一」を教授するといふやうに、一定年限内にあつて、教授課程を循環的に教へるのである。」と。而して循環年數の限界を三年を以つて最極限としてゐる。蓋しこの編制は小規模の日曜學校に取つて最良の方法であらう。

これを要するに、大別より細別へ、粗より精へと漸次に進むときは分級は行はるべく、猶ほ日時を異にすることにより、併せて循環式編制を採用するときは教師が不足でよしや唯の一人であつても立派に複式教授が行はれる事になる。要は唯これを遂行せんとする熱心と努力との如何に存するのみである。

### 三 各組の名稱と定員數

各組の名稱は勿論各經營者の任意にすべきで單に一組二組といふ風に命名することもよいであらうが、或は徳目によりて智仁勇とし、或は花名によりて櫻梅菊

とし、或は天體によりて、日月星とするか、或は宗教的に惠望光等となす事も一法である。兒童はかやうな特別の名を喜ぶものである。

次に各組に於ける人員の限度であるが、小學校にありては七十人を以つてその限度としてあるが、日曜學校にありては、年齢、能力、境遇等が小學校の如く一定し難く、種々雑多であるから、訓練上からも管理の上からも、四五十人を以つて限度とすべきであらう。

## 第六章 教師

生徒が日曜學校に於てその對象物として主要なるものなると共に、この生徒を教へ導く、即ち教育の主體たる教師の大切なる事はいふまでもない。日曜學校の効果成績及びその盛衰は一に教師によつて大部分定まるのである。故に良教師を得る事は最も肝要なる事である。然るに良教師を得るといふ事は非常な困難な事であつて、寧ろ良教師ならざる教師すら仲々得られないのである。現今日曜學校經營難の一は實にこの教師を得るの困難に存するのである。現今の状態では擔當者即教師である場合が非常に多い。然らばこの救濟法は如何。これ先づ解決すべき問題である。

### 一 教師は如何にして得べきか

これが應急法としては教師の交換をなす事である。即ち開校の時間をその交換すべき他の近隣の學校と打ち合はせ融通が出来るやうにして應援を仕合ふのである。けれども、これは專注を缺くといふ虞もあり、又地理的關係に依つては望み得ないことであつて、これは一時の瀾縫策に過ぎない。次に、信者若しくは兒童の父兄の中で兒童の教育に關して多少なりの經驗を有する人に教師たる事を囑托することであるが、これも佛敎的知識も相當にある人などを望む時は容易に得られな

いのである。又小學校教師と連絡を取り應援に来て貰うといふ方法もあるが、これもさう容易には望み得ない。要するに特別機關たる日曜學校の爲めに奉仕しやうといふ特志家は一般からこれを望むことは困難であるといふに歸するのである。

それで最良の方法は教師をつくることである。即ち日曜學校の出身者中適當なるものに佛教の大意及び教授法及び兒童に對する一般的知識等を授けて教師たるものを養成するのである。それで最初から教師たるものを作ることは出来ないから、先づ助手として働かしむるのである。即ち出席簿、記録等の整理、カードの配附、兒童の監督等の事を擔當させて手傳はしむるのである。かくする事は愛校心を増さしめ、佛教徒たるの自覺と責任とを深からしめ非常に有効である。實際上の一般の例と經驗とによると、この教師となることを希望するもの、又事情の許すものは甚だ僅少である。依つて日曜學校の經營者は常に佛恩報謝、社會奉仕の信念から、少くとも一週日中、日曜の半日は日曜學校の爲めに献身的に働かんとするも

の、剋實すれば教師として盡力すべき人を養成することに努める事が肝要である。

## 二 教師の具備すべき要件

教師として具備すべき要件は多々あるであらうが、特に日曜學校の教師として左の五項を挙げたいと思ふ。

1. 知識の所有者たること特に當面の教材に就いて通曉することである。宗教々育を施す以上宗教に就いての知識、特に佛教に對しては一應心得て居らねばならない。即ち佛教概論、佛教史、宗乘要義、教祖、宗祖、佛弟子等の傳記等の知識である。これと共に普通教育に應ぜらるゝ位の一般的知識及び常識を有してゐる事が必要である。佛教に就いては非常に通達してゐても、若し一般的知識や常識が乏しいときは兒童から輕んぜられて了ふ。又特殊のものとしては圖畫と音樂との素養のある事は是非望ましいことである。

2. 兒童の本質を知ること

である。教育を施そうとするにはその対象たる兒童の本質を理解することが根本である。これには兒童心理學、生物學の知識を必要とする。特に兒童の生涯に於ける各時期の特質、就中宗教意識及び道德意識の發達狀態、並に青年期の研究とその指導方法とを知らねばならぬ。

3. 教育の方法を知り實際に通ずること

である。先づ教育の方法を會得するには、教授の要件的原理とその應用とに關する研究、及び日曜學校の組織と管理とに關する研究が必要である。これには一般教育に於ける教育學、教授法、管理法を一應知つて置かなければならない。

而して、これ等によつて兒童に對する概念を得ると共に、一方兒童の實際生活に親しく接して、その實際上の身心の狀態を理解しその實際に觸れて能くこれを導いて行かねばならない。心理學、教育學、教授法等は唯一般の抽象的概念を示

すに止つて、彼れ等の具體的實際狀態を説明してゐない。若し彼れ等の實際を知り、これを導くべき實際的經驗を體得する事がなかつたなら、兒童に無理を強い教育が上之りに陥り易いのである。故にその教育法を知ると共にその實際を觀察し理解して實際に就いて導いて行かねばならない。

4. 教師の人格——愛情と權威

である。これ教師の具備すべき要件の中の根本的のものである。この教師の人格が兒童の仰ぐ所とならず、その教權に權威を缺くやうな事があるならば教育は行はるゝものでない。教師の人格對兒童の人格、この兩者の間に相互敬愛の情が溢れ感情が高まらなかつたならば教育の効果をあげる事は出來ない。高き人格の感化は無形の力と絶大の感激とが湧起されるのである。

而してこの教師の人格といふ中に包含さるべき徳は種々あるであらうが、最も重要なるは愛と權威とである。即ち、一方には嚴にして高き教權を持ち、他方に

は寛にして深き愛情を有し、總ての事柄に對して熱情が溢れ、絶えず生き／＼とした活氣に満ちてゐる事が必要である。かくの如くして兒童の前に立ち我が全人格を投げ出し、我が心を開きて、兒童の胸底に掴ましむるのである。即ち胸から胸へと感激と共鳴とが湧くのである。愛と權威！この二は教師として最も大切なものである。

5. 敬虔といふこと

である。この敬虔といふことは教師の具備すべき要件の總量である。佛典の學習、心理學や教育學の研究、これ等はこの敬虔の念から進み出たものでなくてはならない。教師の人格——愛と權威、これ等は敬虔の念がその根柢であり中心でなければならぬ。敬虔が存せざる所には高き權威と温い愛の泉とは見出すことは不可能である。

敬虔とは絶對者に對する價值と不變とを承認することを意味する。而して敬虔

には敬虔の起さるゝ對象物に於ける價值と敬虔の念を起す自己に於ける價值との二重の價值を有する。教師たるものは、先づ敬虔の心に満ち宗教に對して十分の態度を取らねばならない。而して、彼の殉教者のそれの如く宗教的熱心、傳道的精神が、常に教授的精神の上に輝いてゐなければならぬ。人に與へんとするには、與ふべき何者かを有してゐなければならぬ。兒童の胸底に尊い敬虔の念を樹えつけやうとするならば、先づ教ふるものが敬虔の念に満ち宗教的熱心が燃えてゐなければならぬ。教師の心に宗教的信念の強き情熱と智慧火とが熾熱して居つたなら、兒童の胸底にもこの火が點ぜられずには居らない。敬虔の念に満ち宗教的熱心に住することは宗教々育の教師たるものゝ基調であり總體である。

三 教師としての注意

教師の具備すべき要件として愛と權威とが肝要なる事を前述したが、此處に注

意すべきは、愛といふも妄愛と偏愛とに陥つてはならぬ事である。妄りに彼れ等  
を愛する時は教師の權威が損し易く、従つて管理が困難となり、又感化力もなく  
なつて了ふ。愛と權威とは別個のものではなくして、相ひ表裏して互に補ひ合  
ふて常に平行を保つて行くべきものである。即ち愛は慈悲門で權威は拆伏門であ  
る。慈悲救済の權化たる地藏菩薩は一面劍を把持せる不動明王たる事を記憶せね  
ばならない。某氏がいふたやうに頭を出して打たせる愛し方でなく、頭を撫でて  
やる愛し方でなくてはならない。

次に、吾人の弱點として陥り易いのは偏愛である。兒童の容姿、服裝、教師に對  
する態度、家庭の地位等によつて、偏頗の愛をなすことは往々あり勝ちなことと  
ある。又異性に對しては本能的關係で偏愛が行はれ易く、特に若い教師にあつて  
は多く女子のみを特別に愛したがるものである。偏愛に陥るときは教師の不信用  
を醸し、生徒間の統一を缺き思はしからぬ結果を來すものである。依つて妄愛偏

愛は注意すべきことにて佛子平等の眞の愛を以つてせねばならぬ。

次に權威といふも、兒童より超然と離れて威張つてゐるといふ意味ではない。  
兒童の教育には菩薩行の隨一である同事といふことが大切であつて、兒童を教へ  
導かんとするのには、兒童化して兒童の心と融合しなければならぬ。けれども  
兒童になつて了ふのではなく、兒童化したるその中には兒童ならざるもの、否な  
兒童の侵すことのできぬ何者かを有してゐなければならぬ。「あの先生はやさしい  
よい先生だが、何となくビリとした所がある」といふ感じを抱かしむる事が必要  
である。

次に、兒童に對しては常に吾人のなし得る最善のものでなければならぬ。コド  
モだからといふてこれを輕々にしてはならない。或る、花徽章を用ふる大會での  
事であつた。大人の爲めには絹地で立派な花徽章が造られたが、コドモにはこれ  
は贅澤過ぎるとし又一寸見ではわからないから子供には紙のを別に造つて與へや

うとするのであつた。自分は憤然立つてこれに反對したことがあるが、佛教徒が  
 こういふ思想でゐる間は兒童教化なり宗教々育といふものの徹底は覺束ない。コ  
 ドモに對して果して贅澤なものであるらば大人に對しては贅澤でないのであらう  
 か。——その日の光榮を祝禍する花徽章に於て——かゝる人々は、兒童は驚嘆す  
 べき批評家で萬事に卓越せるものを認むるに鋭敏である事を知らないのであらう  
 か。「兒童を愛せよ」これ教育家に對する一の不文律である。タゴールがいつた「愛  
 は理解なり」と。彼れを愛することは理解することであり、理解する事は眞に愛す  
 ることである。大凡自分が理解されたときは誰人と雖も非常な力を感じ、その取  
 り柄を承認されたときは感激が湧くものである。吾人は少くとも、彼等の宗教性  
 を認め、小さき佛性の所有者としてこれを尊重することを忘れてはならぬ。

## 第七章 學科及び教材

生徒が集り組の編成ができ教師が定つたなら、次には如何なる學科を課すべき  
 か、これに對する教材は何を用ゐ、何にこれを求むべきかといふことを考察しな  
 ければならない。而して日曜學校として課すべき教科目としては、一、説話、二  
 唱歌、三、遊戯の三であらう。

### 一 説話

説話として教授さるべきものは、一、教話、二、傳記並に聖句、三、物語の三  
 に大別することが出来る。今この一々について述べやう。

**教話** 兒童の信念を涵養し道德的品性を陶冶せんが爲めに、教理及び信仰を  
 中心とし併せて道德的徳目を授くるのをいふのであつて、これ宗教々育の骨目と  
 する所である。

教話は信念の涵養を主とするものであるから、兒童をして感ぜしめ信ぜしむる



やう、信仰を説くを第一とすべきであるが、その信仰の内容を廣濶ならしめ且つ邪信迷信に陥らざらしむる爲めに教理の教授もこれに伴うてせねばならぬ。而して、信仰は必ず日常の生活の基調として力となつて現はるべきものでなければならぬから、教理を授け信仰を説くと共に、道德的徳目をもこれと相關連せしめて授くべきである。

而してその教材は、その信仰の内容であり表現である所の所依の經典を中心として求むべきであるが、その引例譬喩等に至りては、廣く諸經典及び現前の事物にこれを求むべきである。由來佛教は深遠なる哲學的教義を有するも、その所詮は實行にあるを以て、徒らに智解によりて邪見に墮するよりは、正解を以つて行本を確立するを要とした。故にその教を施すや直截簡明にして具體的説話多く、悉く譬喩、因縁、古談、或は現前の事例の何れかを混ぜざるものなしといふも過言ではない。而してこれ等の多くは、往古未開の民衆に理解せしむる事に努めたるも

のなれば、兒童の能力にも自然に適應してゐるものが多い。故に廣く佛教々典中にその教材を求むるは難事ではなく寧ろ容易なりといふべきである。

試みに教話として授くべき題目又は徳目を舉げて見るならば、一、教理及び信仰に關するもの、二、處世に關するもの二に分ける事ができる。

先づ教理及び信仰に關するものとしては、佛の慈悲、佛の智慧、本願、名號、念佛等、佛の力即救濟（光攝、護念、來迎、往生等）、佛出世の本懷、教主としての釋迦牟尼如來、因果、業報、輪廻、冥加等である。又これに因みて儀式及法要等に關する知識及び心得をも授くべきである。即ち燒香、献花、燈明、合掌、禮拜及び齋戒沐浴等、又六金色、精進等のこれに因みて普通語となつてゐるもの、説明等である。勿論、本願、名號、念佛、來迎、往生等は、解題、釋名をすることを意味するのではなく内容的にこれを話し、又は單直仰信せしむるのである。

次に處世に關するものとしては、克己、勤勉、忍耐、慎言、節操、戒酒、懺悔

等(自利的)、及び、慈悲、博愛、公益、報恩、感謝等(利他的)である。

傳記並に聖句

兒童をして高き理想を懐かしめ、且つ宗教的信念の力が如何に美しく尊く且つ偉大であるかを感知せしむる爲めに、宗教的偉人の傳記を教授する事が必要である。これは、場合によつては教理や信仰を直接に話すことよりも一層有效な場合がある。偉人の強き信念は、その美しき行爲の中に、その偉大なる事業の中に、常に強い光となつて閃いて居る。而もこれは日常の實生活とよく調和されてゐるからして、現在の具體的な兒童の頭にはよく受け容れられる。且つ、兒童の有する英雄崇拜の理想は、その高き人格を取り容れ、終には眞の靈的の理想的對象に進むやうになるのである。而して教材として取るべき傳記としては、教祖、佛弟子、宗祖を初め、その他の古今の高僧及び一般的の篤信者の傳記等である。

次に、教祖宗祖等の聖訓を抽象し歸納したる聖句は、教話と關連せる大切なる

教材である。聖句は、數多の教理信仰等を統括し、よくこれを記憶し、事に當りて直に發する命令たらしむべきものであるから、成るべく簡單にして口調よく且つその發表が有力なることが必要である。その數も餘り多過ぎては不可で、十乃至二十を程度とする。

物語

興味を中心とし其の想像力を利用して、宗教的情操及び道德的情操を涵養するに用ゐらるゝものであつて、特に、下級なる年少者に重要な教材である。物語として用ゐらるゝものは非常に廣汎であるが、今教材として用ふべきものとしては、<sup>ジキリウカ</sup>本生譚、經典中の譬喩、古談等、及び一般的童話である。

右の中、童話を教材となす事に就いては異論がある。即ち日曜學校にありてはその教材は全部經典に求むべきなりとし、童話を用ふる事を全然排斥する人がある。これ元より眞理はあるも偏狹の見解たるを免れない。これ畢竟宗教々育を狭義に考ふる事と、童話の本質及び兒童の心理を善く了解せざるに起因するもので

あらう。依つて次に教材としての童話の價値を明にしたいと思ふ。

教材とし 童話は、元來宗教的・道德的分子を含むことが非常に多い。依つて宗教的の童話 教々の教材としては重要な位置にあるものである。この事實は、

童話の起源、及びその構成を考察することによつて極めて明瞭となる。

童話は、大體に於て少くとも其の古きものは、神話にその起源を發してゐるといふ事ができる。元來原始時代の野蠻民族は自發的想像が非常に旺盛であるので、閃々たる電光に懷疑の瞳を光らし、隱々たる雷鳴に恐怖して、その自然の強大不可思議力を想像し、雲の奇怪なる形狀を眺めては悪魔なりとし、その飛走の迅速なるを見ては空中の戦争なりと想ふのである。かくの如く、動植物に對しても同様にその自發的の想像が湧いて種々なる神話が作られるのである。而して、この神話は、最初は、その民族間に一の信仰となつて彼れらの日常生活を支配するのであるが、段々と知力の發達と共に、次第に、その力を失ふに至るのである。けれ

ども大人には力を失ふた神話も兒童には興味を以つて迎へられたのである。これ兒童の精神生活は野蠻人のそれと類似してゐるからである。依つて知力の發達した後代に至つても、神話は老人などの口からして兒童に代々話され、これが反覆されて兒童の興味を喚起するものが後代に傳はり廣く諸方に傳播せるものである。かくの如くして民族童話の多くはできたものである。而してこの神話は直に宗教なりといふことはできないが、宗教の源流をなせるものと見る事ができる。依つて、神話は宗教と密接なる關係を有するものであるから、童話は宗教と間接に非常に深い關係を有してゐるものである。

更に童話の構成を考察すれば、童話は想像的にして神秘不可思議の分子が非常に多い。前にも詳述した如く野蠻民族は自然の神秘不可思議に驚畏してこれを崇拜するものであるが、兒童の宗教的生活もこれと類似してゐる。依つて兒童は、かくの如き童話を聞くことに依つて、彼等の宗教意識の素地が不知不識の間に培

養されることが出来る。次に又、兒童の精神は最初は極めて單純であつて、社會の複雑なる關係や事柄は了解することができない。然るに童話は社會の現象を單純化したものであるからして、これによつて、善惡因果等を知り且つ親切同情犧牲等の感情を誘發することが出来るのである。故に、童話は幼兒の宗教的・道德的陶冶訓練には、非常な效力を有するものである。

童話はかくの如く幼兒の精神的・食物として、宗教々育の材料として有效なるものである。けれども、童話は全部道德的にのみ作られてゐるものではない、中には殘忍非道德的のものなども少くない。依つてこれ等の非道德的のものはこれを避けねばならぬ。又非常に空想的のものは成るべく避けて現實的なものを用ふべきである。積極的にいへば宗教的・道德的の材料を選択すべきである。猶ほ童話は有效なるものであるが萬能なるものではない。故に若し童話のみを日曜學校の教材として足れりと考ふるが如きことあれば、これを排斥する人と共に極端にして

不明の徒たるの譏りを免れない。特に童話は想像力の盛なる幼兒にある間が最も有效なので、十歳以後に至れば傳説、傳記、史談等を喜ぶに至るのである。依つて童話は想像力の盛なる幼兒に對しての教材とするに適し、それ以後には、宗教的傳説、高僧特信者の傳記、教義信仰等を授くべきである。

## 二 唱歌及び遊戯

**唱歌** 唱歌は日曜學校の學科としては説話と共に重要なるもので、感情の養成には缺くべからざるものである。即ちその音の節奏調和によりて人の感情を動かし時間の流れを追ふて現實界を離れたる審美の境に心を遊ばしめ、全く精神を自由にしこれに餘裕を與へて、情趣を起さしむるものである。特に兒童は音樂を愛好するもので未だ口も廻らざる時分から既に樂調を覺ゆるものである。故にこの音樂を利用して、佛の慈悲、歡喜踴躍、感謝報恩等を歌詞として自然の間にこれ

を覺えしめ、且つその優雅の音譜を唱ふる事により神秘幽妙の境に到らしむるは宗教情操の涵養上頗る有効の事である。加之、これを合唱することによりてその團體の結合的效果を一層強からしむる事ができる。

而して、この唱歌をして兒童の内部の感情に觸れしめ、宗教情操を助長せんとするには、その音曲並に歌詞が兒童の精神發達階段に應ずべく、且つ、その宗教意識等にも注意する事が必要である。平易優美の中に神々しき所あるを理想とする。それで教材としては佛教唱歌、讚佛歌、讚仰歌等を用ふべきであるが、一般のものでも、自然を讚美せる優雅にして適當なるものは併せ用ゐても差し問えないと思ふ、けれどもこれは小學校の教科中にならないものであつてほし。

遊戯 これは唱歌に伴つて課すべきである。唱歌は幼年から青年に至るまで通じて課する事ができるが、遊戯は主として幼兒及び少年に課すべきで、幼兒には動作遊戯が必要で、少年には團體遊戯、競争遊戯を主とすべきである。遊戯は

擁護即ち身體的訓練がその主なる働きであるが、宗教々育の上からしては、その説話にて聞きたる傳記や話、又は唱歌にて學びたる事を、動作表情に表はす事は興味を増し、印象を強くし、且つ教科全體の連絡も取れ、教育の効果を一層擧げる事ができる。特に活動性に富む幼兒にありては、單に歌ふてゐるよりも、これを歌ふと共に手足を運動させる事は、單調を破り變化を與へ、且つ活動そのものを喜ぶものである。又團體遊戯に於ては、共同一致、献身犠牲等の精神を覺らしむる事ができる。競争遊戯などの場合には、忠實正義等の觀念を養ひ好機會である。即ち勝負は飽くまでも正々堂々たるべく、眞の勝ち、悪辣な手段を以てすべきにあらずして、誠心誠意その己れのなすべき事に全力を傾注して、堂々と戦ひたる時に於てのみ賞讃に價すべきであるといふ事を教ふべきである。かくの如く、遊戯を爲すが如き實際の場合に於て、道德的觀念を實感せしむる事は極めて有効である。依つて日曜學校で遊戯を課する場合は常に唱歌並に教話等と常に連

絡を保ち、宗教的・道徳的訓練の實際的方面であることを忘れてはならない。

### 三 教材の配列

學科が定りたる以上は、その教材を如何に配當して教ふべきかを考へなければならぬ。この教材の配列には二つの標準に據る事が必要である。即ち心理的標準と論理的標準とである。心理的標準は兒童の身心の發達程度によるものであつて、これ約説原理に基けるもので即ち世界の歴史が開化せる自然の順序に従ふものである。これは兒童の初めに最も適切なる標準で特に人文的學科はこれによる事が最も便利である。けれども、學科そのものの性質による論理的標準によるべき事も全然無視すべきではない。これを要するに兒童を本位とし、兒童の精神發達に應じて教材を排列すべきであるが、これに論理的標準を取り入れ適當の程度に於て二箇標準の調和を計り、簡より繁、易より難、近より遠、既知より未

知へと進むべきである。

然らば如何に配列すべきかといふに、先づ古來より行はれたる方法を、繁を避くる爲めに表示すれば

- 一、二ヶ目以上の場合
  - 1. 段階的——毎年段階的に教科目を替へて行くもの。
  - 2. 併列的——初年級より諸教科目を並列的に進ましむるもの。

- 二、同一科目の排列法
  - 1. 直進法——教材を區分して各學年に配當し順次に進む。
  - 2. 圈狀法——毎年同一教材を反覆し漸次詳に至る。

右の中第一の場合に於て、段階的排列法は一面一科々々の纏りつき、且つ同一のものを取り扱ふより前後の連絡では記憶し易き長所あれども、他面には、他の學科と連絡を缺き了解し難きことを生じ、又同一のものを連續するを以つて興味を失ふの失がある。次の併列的排列法にありては、段階法の缺陷は補ふことができ、その科目の完結するには長期間を要するを以つて知識の統一を缺き、且つ同

時期に教科目を課する點より被教育者を過勞せしむるの失がある。かくの如く二者何れも得失あるを以つて、これを理想的になすのには、二方法の長を取り短を棄て二者拆衷する方法に依らなければならない。即ち大體に於ては併列法を用ゐこれに段階法を加味し、初年級には課目を減じ學年の進むに従ふて課目を増加する方法で、これ現に行はれつゝある所のものである。

第二の同一教材排列の場合に於ても、直進法は便利ではあるが記憶の困難、知識の不統一等の虞れがあり、次の圈狀法によるときは、これ等の缺を補ふことができるが、興味を失ひ倦怠を招くの失がある。故にこの得失を調和して拆衷法が用ゐられてゐるのである。上述せる如く、第一、第二の兩排列法に於て共に拆衷法に依るを可とするも、學科の性質によりては、或は直進法に或は圈狀法によるを便とする。

以上の標準と方法とに基き、前述せる學課を配列すれば、次の如く配列するこ

とが適當と思ふ。けれども一寸一言したいのはこれは重大な問題であるから輕々に學科を定め教材を配當する事は、自分の淺薄な研究では越權であることを慚愧してゐるものであるが、多くの日曜學校經營者はこれを望んで止まぬものであらうが、未だ具體的にこれを指示されたものが未だ求められないといふ事は非常に遺憾に思つてゐる。故に自分はその器に餘る事ではあるが、先輩諸彦の叱正を仰ぎ且つは經營者の參考にもと大體ながらこれを掲げやう。讀者これを諒とせられんことを。此處には徳目も併せて掲げる。

學科別	幼 年 部	少 年 部 下 級	少 年 部 上 級	青 年 部、師 範 部
教 話	佛の存在、佛の愛。親切、身體に關する徳目。	佛の愛、善及び力。聖句の暗誦。父母、朋友、學校に關する徳目。	教義教授の初歩。社會國家に關する徳目を主とす。	教義教授、聖典の研究。社會、國家、人類、宇宙に關する事。
歴 史 記		半空想的の傳記及び史談	傳記及び史談	傳記及び佛教史
童 話	ジャータカ、童話	ジャータカ、童話、傳説	合理的童話、傳説	童話の取扱方の研究

唱	唱歌	程度の少々高きもの	同	上	唱歌の教授法の研究
遊	遊戯 動作遊戯 團體遊戯	動作遊戯(講遊) 團體遊戯	動作遊戯 競争遊戯	團體及	遊戯の指導法の研究

### 第八章 教授法

學課が定まりその教材の配列が決定した上は、如何にしてこれを授くべきかといふ事を研究せねばならない。大凡、吾人が一定の知識を習得するのには略々定つた心理的過程を経なければならぬ。而してその過程としては大略三つの形式となる。即ち第一にはその與へられた知識を受け取ること、次にはこの受け取つた知識を理解すること、最後にこの理解したる知識を保存してこれを活用することである。

かくの如く知識の習得には、受領、理解、應用といふ如く一定の段階を経なければならぬからして、古來より知識技能を獲得し、且つこれを應用せしむる爲めに

形式的段階説なるものが唱へられてゐる。而して、宗教々育にありては、論理的知識の範圍は極めて狭くはあるが、宗教的知識を正確に理解せしむるのには、一定の論理的基礎の上に立たなければならぬ。依つて一定の段階を踏む事を必要とするから、この教授の段階から考察して見やう。

#### 一 教授の段階

抑もこの形式的段階説なるものは、その源をヘルバルトに發してゐる。従來は教授の順序としては、教師の講義した所のものを、唯、後にこれを暗記したに過ぎなかつたのであるが、ヘルバルト出づるに及び、その心理研究の上より教授に於ては興味を起さしむることを目的とすべきを説きこれには觀念同化の理に従ふべきであるとした。この觀念の同化とは既に有せる概念の作用によつて新しく入つて來た觀念を攝取することであつて、この場合には即ち興味なるものが生ずるの



である。即ち興味を喚起するのには觀念の同化の理に従ふべきなりとし、この心理的順序としては。明瞭、聯合(專心)、系統、方法(致思)、の四階段を踏むを要するものとし、所謂四階段教授法なるものを立てたのである。この四段の説はその高弟ナルレルに依つて、明瞭を更に分解と綜合との二に分ち五段となし、所謂形式的段階なるものが大成された。而してナルレルの門弟ラインに至り、これを教授上の便宜からしてその名稱を改め、豫備、提示、聯合又は比較、總括、應用の五段とし、猶ほ右の五段の初めに目的の指示をなすべき事を主張した。これは現今我國に於て最も多く行はれてゐる段階説である。目的の指示は今教授せんとする教材の主眼を知らしむるもので、豫め兒童の期待心を生ぜしめ注意を惹き起し、然る後ち第一段の豫備に入り、新に授けんとする觀念に關係あり且つその基礎となるべき舊觀念を喚起しこれを整理して、新に教へんとすることを理解するに適せしむ。第二段の提示は、新しく教へんとする事項を理解せしむる段階にて、この

段階に於てはその教授事項を幾節かに分ち一節毎に明瞭なる具體的觀念を得せしめなければならぬ。第三段の聯合は今教へられたる事項と舊き事項とを比較して、これを連絡結合せしむ。第四段の總括は、新舊の具體的觀念に通ずるものを抽象して概念若しくは法則に系統立てる。第五段應用は、今得たる抽象概念若しくは法則を實際問題に應用するを指すものである。

この五段教授法は我國にては最も廣く行はれてゐるのであるが、餘りに形式的に流れ、且つ冗漫に失すといふので近時は三段教授法なるものが高唱されて來た。吉田博士は「教授は授くる所の事柄を正確に理解せしめ且つ永くそれが力あるものとして残るものとすればそれがよろしいのである。……無駄な勞力をなましむるは惡教授法である」としキルマンの受領、理解、應用の三段階説に同意し中島半次郎氏はデルフェルドの定めたる豫備、授與、應用の三段を取り、この三段を踏ましむるを以つて一般の法則とすべしとしてゐるが如きである。

而して宗教々育の上へからは何れに據るべきかを考察すれば、五段教授は具體的觀念より出發し、歸納推理により抽象的概念又は一般的法則を概括せしむるにあるのであるが、宗教々育にありては歸納推理によるの外、聖句格言聖訓等より出發してその意味を説明するが如く所謂續釋推理に基くものも多いのである。猶ほ宗教々育は論理的知識を授くるといふよりも情操の開発、意志の陶冶を主とするものであるから、五段の煩はしき形式的段階を一々踏むことは感情の誘起を妨ぐるの虞れがある。テオドル、ツイゲット氏は曰く「宗教及び歴史など道德的模範を示すべき教科は、知識を主とする他の諸學科の如く比較と概括と説明と推論とに多辯を費してはならぬ。かくの如きは感情を誘起する妨害となりて模倣的行爲を起さしむる力をも失ふものである。熱心なる行爲を起すものは、熱烈なる感情にして、熱烈なる感情を誘起するものは、抽象したる概念ではならして具體的の觀念である」と。猶ほ又、この五段法は論理的知識を標準として觀念啓發の爲

めの段階であるからして、未だ論理的思考の發達せざる幼兒にはこれを踏ましむる事は不適當であり、又技能教授には適用する能はざるものである。これ等の諸點よりして宗教々育にありては、形式的煩雜なる五段を取るよりも自由にして應用自在なる三段法による事が適當であらう。蓋しこの三段法にありては心理上の法則からも論理上の法則からしても共に知識を明にし、且つその事實を説明して觀念を明にする場合と、概念若しくは法則を得せしむる場合とを問はず等しく適用する事ができるからである。その三段階とは、豫備、教授、應用であつて、その普通に適用すべき順序方法を示せば

豫備

聖句又は先きに教へたる事項、又は前時間に授けし事項で新に授けべき事實に關係ある既有的觀念を分拆整理して話を始める。(主として發問法を用ひて)

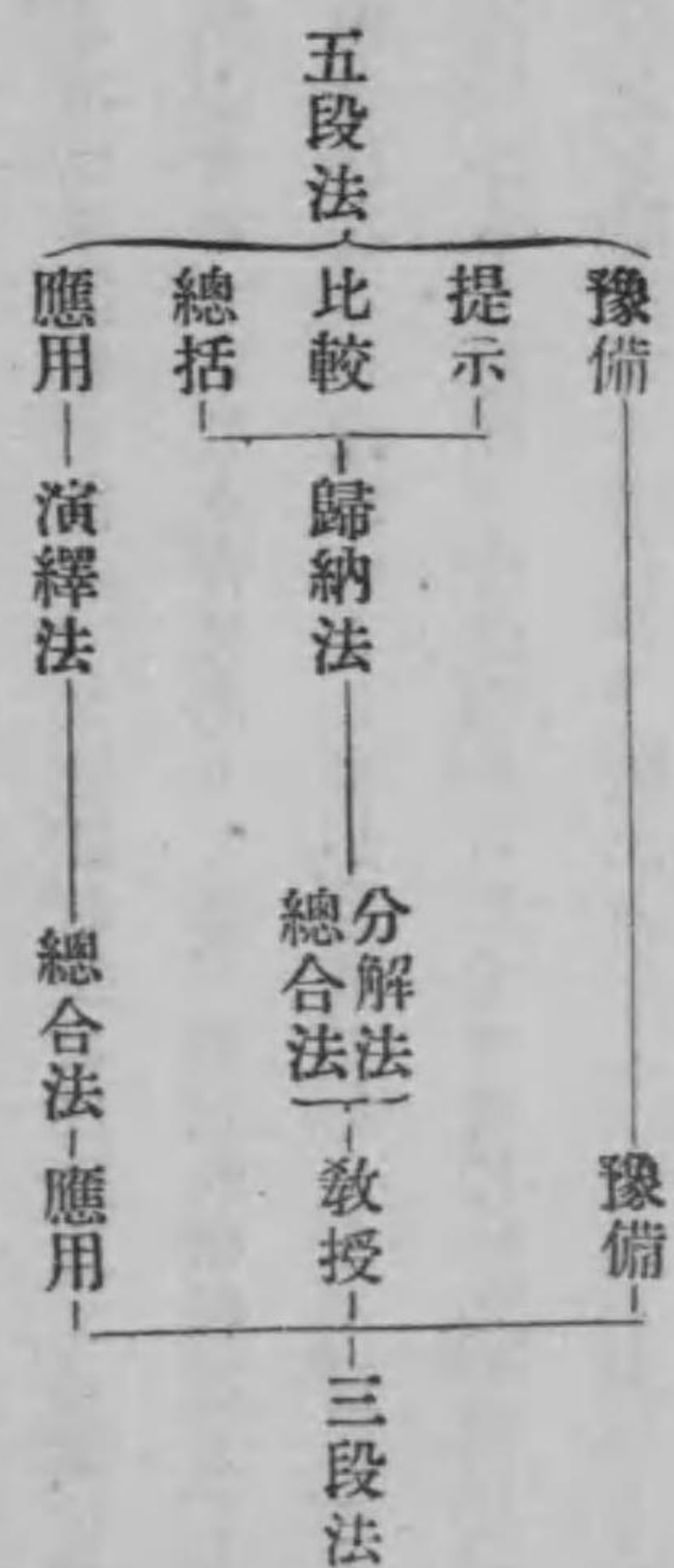
教授

今授けんとする事項に就いて熱心に説話する。これが中心にして最も

主要部である。

應用 今の話を實際生活に結び附けて話を終る。

この三段は、一段毎に區別が立つ様ではないけぬ。全部圓滑に自然に進行せねばならない。而して、若しその教材が、或る觀念若しくは法則を得せしむるものである場合には、これをこの教授の段階に含め、その終りに之れを踏ましむればよい。今ま、五段法と三段法との關係を圖示すれば左の如し。



而して、五段法に於ては知的開發の爲めの段階であるが、三段法にありては知

的及び情意の二作用の開發をも含む。

二 教授の様式

教授の段階が決定すれば各段階に於て如何なる様式を取るべきか、即ち教師と児童との間に於ける教授作用の方式は如何にすべきかといふ事を研究しなければならぬ、即ち教式の研究である。この教式なるものは教師と生徒との間に行はるゝ様式であるから、教師を主とするものと、生徒を主とするものとの二に大別される。その教師を主とするものは注入式又印象式と呼ぶるものであつて、これは現示と講演との二に細分される。次に児童を主とするものは開發式（又は對話）と發表式との二教式となり、開發式は更に問答式と課題式との二となり、發表式は即ち作業教式である。

現示とは児童の眼前に實物若しくは教師の模範を示してこれを直觀せしむる方

式であつて、示教と示範との二となる。示教とは兒童の眼前に實物を提供して、これを直觀せしむるもので、即ち兒童の感官を経て現實の自然界及び人事界の事實に就きて具體的の觀念を得せしめんとするものである。次に示範とは教師自らが生徒の眼前に立つて言語又は動作で模範を示してこれを直觀せしむるものである。即ち唱歌遊戲の如きものである。

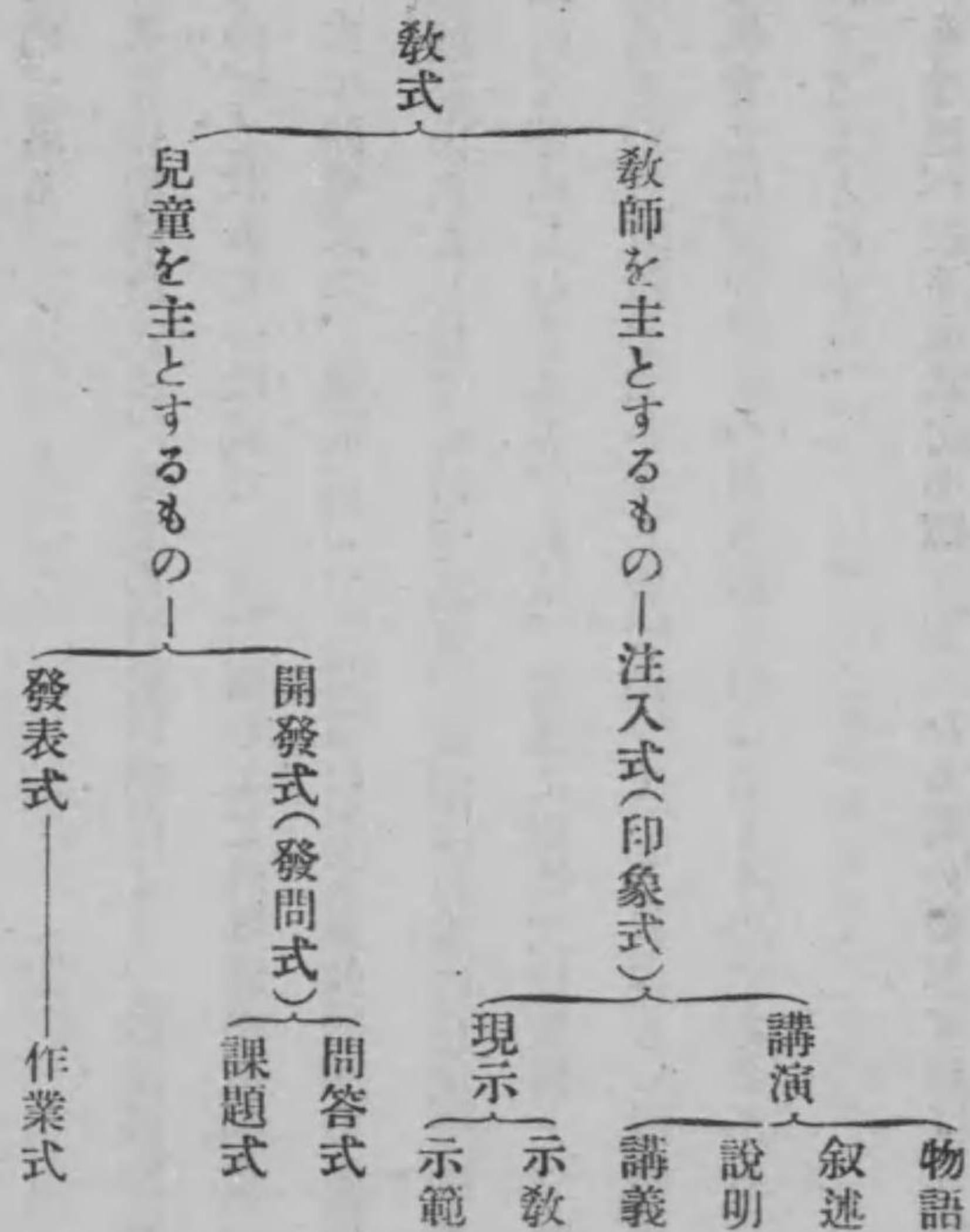
次に講演は、右の示教及び示範の如くに實物を提供し又は教師が模範を直接に示すことができざる場合に、教師の言語の媒介によりて間接に事物の知識を受けらるものである。而してこれに數種ある、即ち言語によりて行爲の直觀に代ふるものを物語又は説話といひ、實物の直觀に代ふるときは叙述といふ。依つて物語は時間的で叙述は空間的のものである。又、辭句、事物、又は概念の解釋説明に用ゐらるゝときは説明といふ。次に説明の系統的に連續し或は抽象的概念或は法則及び事實の系統的知識を授與する場合にはこれを講義といふ。この中、物語及び叙述の

二は何れも兒童の具體的觀念を喚起しその直觀に訴ふるもので、示教示範等の實物の直觀に代ふべきものであつて、日曜學校等の兒童には最も多く用ゐらるべきものである。

次に作業的教式は、兒童の自發活動により、既得の知識技能を發表し活用するものでこれ新しい教式である。而してこれは筋肉運動を主とするものである。

次に開發式は、發問によつて兒童の有する知識能力を開發して行くもので眞に教授を力あらしむるものである。課題は兒童の自由活動を要求するものでこれ筆頭にて答へしむるものである。最後に問答式は教師と生徒と問答しつゝ、教授を進めるもので教授を活かすものであつて、これはどの段階に於ても用ゐらるゝもので教育には重要で且つ最も廣く行はるゝものであるから、これは、節を改めて詳述することにする。

今更述べる教式を明瞭ならしむる爲め圖示すれば左の如し。



この教式と段階との關係は、注入式は多く教授段に、發問式は豫備及び應用段に多く用ゐらるゝが、けれども實際に於ては、學科の性質、教材の内容により或は

示教示範を或は物語又は説明を、或は問答式又は課題式をといふ風に各段に自由に用ふべきである。

### 三 問答の仕方

問答法は、かの注入式の教授が、教師が常に主となり生徒が受動的位置にあるに反し、教師の問ひに對し生徒がその既得の知識を活用して答ふるものであるから、児童は能動的の活動をするのである。故に講演教式に於ては稍もすると生徒の倦怠を招くやうな事があるが、この問答法を用ふるに於ては、教師と生徒とが常に交互に能動的の活動をなすのであるから、變化に富み活氣溢れ倦怠を招くやうな虞はない。又生徒の能力を自然に開發し、知識を明に整理する事ができ、且つ教授の場合には如何なる段階に於ても最も多く有効に使用することができるものである。

問答法は、かくの如く教授上有效なものであるが、この方法は、生徒の能力を開發し既得の知識を整理する事はできるが、新に知識を授くる事はできない缺點がある。依つて、教授に於ては、講演、示教、示範等の各教式を併せ用ふる事が必要で、しかするときに相互に缺點を補ひ益々その特長を發揮することができるのである。

次に問答の方法に就いて述べんに、問答せんとするには、先づ第一にその目的を明にする事が必要である。大凡教授上に於ける問答は大體、三つに大別することができ。即ちその第一は豫備的質問である。これは是れより授けんとする事項に對し、如何程の豫備的知識を有して居るかを知らんが爲め、又は教授を施す準備として生徒の精神状態を整理し又はその注意を喚起する爲めになさるゝ問答である。第二は發展的質問であつて、其の發問によつて生徒の潜在せる知能を啓發さする爲めに用ふるものである。第三は、試験的質問であつて、教授の終つた後

ちに於て、その教授したる事柄が十分理解されてゐるかどうか試験する爲めになさるる問答である。かくの如く、發問には種々なる目的があるのであるから豫めこの目的を確定して質問する事が必要である。然らざれば發問の意義が徹底せずして兒童をしてその答に迷はしむるに至るが如き事があるからである。

次には、その目的に従つて發問するに就いての要件及び注意事項を列擧すれば次の如し。

一、發問の意義は明瞭にして簡潔に且つ音調鋭きこと。その發問にして不明冗漫なるときは兒童は發問の旨意を捕足する事が困難である、従つて正確な答を望むことができぬ。且つ音調が緩くして活氣がない場合には、自然と簡潔を缺き不明瞭に陥り易い。

二、發問はその要點及び範圍明確にして唯一途の答を要求するものたること。その發問にして要點及び範圍が明かでない、一問の中に數多の問答を包含するや

うな曖昧なるものたるときは、兒童の觀念を散漫ならしめ且つその答に迷はしめる。

三、發問は兒童の理解し得らるゝ範圍に於てなすこと。而して若しその發問にして少しく兒童の力に困難なりと覺ゆるときは暫於の猶豫を與ふべきこと。餘りに難解の質問はかへつて兒童の頭腦を感亂さす虞れがある。而して猶豫を與へて思考せしむることは知能を練磨するに必要なことである。

四、發問は兒童全體に行き互るやうにし全級兒童を活動せしむること。然らざれば兒童間に嫉妬反目等を生ぜしめ而白からざる結果を醸すことがある。依つて最初は全級兒童に向つて發問し、後ち指名して一人に答へしむるやうにするのである。而してその答へしむるには席順に依らず諸方に涉るやうにすることがよくある。

五、發問は、兒童の理解力の程度又はその特性に應じてその方法を異にするこ

と。即ち難解なるものは優等生に、容易なるものは劣等生に、奇抜なるものは頓智の利く兒童に答へしむるが如きである。

六、數多の發問をなす場合にはその間に有機的關係をつくること。即ち第一問の答は自ら第二問を誘起する様になければならない。而してその授けんとする又は授けたる發問には常に系統的の連絡を保つことが必要である。

次に兒童の答辯に對しての要件及び注意事項を列舉しやう。

先づ答の要件としては

- 一、答の音聲は明瞭なること。
- 二、答の用語及内容は正確なること。
- 三、答の語意は完結すること。

で、教師は平生よりから訓練することが必要である。

更にその答に對する注意事項としては、

一、答が正しくとも、若しそれが唯々機械的に答へたる疑あるときは更に之を問ひ返へして急所に切り込むことが必要である。これ眞の知識を得さしむる道である。

二、答が大體當れる時は、その足らざる所を問ひ返して生徒自らにその缺點を悟らしめ、これを修正せしめたならば更に一度これを明瞭に反覆せしむべきである。

三、答が正當ならざりしときは、直ちにこれを訂正せずして兒童自らに悟らしむる様指導することがよい。特にその誤れるの故を以つて全然これを否定し、甚だしきは冷笑的態度をとるが如きは慎まねばならない。飽くまでもその眞理を吸みとり、人格を尊重し、自ら悟らしむるやうに努力する事が肝要である。唯々その答の正否を十分了解せしめねばならない。

四、生徒の答全然無きか又は全く誤れるかの場合には、我が問ひの無理なるか

否かを反省し、若し然らざりし場合には、更に他の生徒にこれを答へしめ、その答が正しかった場合には、これを前の答へ得ざりし生徒に繰り返へさしめ、奮勵心を惹き起さしむるやうにすることがよい。

猶ほこれを要するに、問答法は兒童の能力の開發、知識の整理がその根本であつて、兒童自らに眞理を發見せしむる事が必要である。彼の塊のウイلمان氏の曰へる「生徒の言ひ得る事をいふべからず、生徒自ら發見し得ることを授くべからず」とは實に問答法の秘訣である。

### 三 お話の仕方

講演は問答によつては行うことの出来ない新知識の授與、並に行爲又は事物の直觀をなさしむる重要な教授形式たる事は前述した。この講演の中に於て日曜學校で最も多く用ゐられ且つ兒童の興味を惹くものは所謂お話である。お話はそ



の事物や行爲の具體的直觀によつて自然界の事物及び社會上の種々なる事柄などを知らしむるのみならず、感情を誘發し意志を陶冶せしむるに非常に有力なものである。故に今、お話の仕方について述べて見たいと思ふ。このお話の方法は講演の他の形式にも應用又は適用されるであらう。

お話するに就いての要件は次の如く概括さるゝであらう。

一、活躍せしめよ。お話は他人の眼前にその光景が髣髴として躍如たらしむることが必要である。その他人の心眼に活躍せしむるには先づ自己の心中に於てこれを活躍せしめねばならぬ。それにはその話の内容をよく咀嚼し自由自在に話せるやうにし、且つその話中の中心人物の性格を現在の人の中に活ける模範を求めそれを常に頭中に描いて置く事が必要である。

二、感ぜよ、觸れよ。對衆をして感ぜしめんとするには先づ自らそれに觸れなければならぬ。而して教師の感動はその發表によりて生徒に通ずるものである。

から、音聲の抑揚、顔面の表情、四肢による身振等ヂエスチャーを巧みに利用して、その感情を傳達すべきである。岸邊氏の所謂見せることが大切である。この音聲の抑揚、表情、身振等は總て自然の發露たる事を要求する。而して、如何なる巧妙なる發表法も衷心に燃焼する真情には及ばざることを記憶しなければならぬ。彼の講談等に於て、真情の籠らざる千言萬語より、一滴の涙無言の微笑がよく大なる感動を與ふるではないか。實に熱き感激を有することは感動せしむることである。

三、具體的たれ直觀的たれ。お話は行爲又は事物の直觀に代ふるものであるから抽象的のものであつてはならない。例話譬喩等を用ゐて具體的直觀的ならしむることが必要である。唯だ内容を具體的にするばかりでなく説明も具體的であり直觀的であることを要する。特に幼兒に對する場合は然りである。例せば「夜は更けて丑の刻頃になつた」といふを「どこの家の戸も皆な閉められて了い表は人も車も通らなくなつた」、又電車の通つてゐる所であつたら、人も通らなくなり、電車

も通らなくなつた時分」といふが如きである。

四、言語は平易で明瞭なれ。語調は早過ぎるな。内容及び説明が如何に具體的であつても、その言語が平易でなかつたなら、且つその言葉が不明瞭であつたなら矢張りだめである。而して語調が餘りに早く、その句を受け取ることが出來ざらぬ。中から次へと話が疊みかけるやうでは理解せしむることができぬ。そうかといつて餘りに緩に過ぎて活氣をそぎ倦怠を生ぜしむるやうではいけぬ。緩急よくしきを得る事が必要である。而して、語句と語句との間には少しの餘裕をつけることが必要である。

五、秩序的なれ、系統的なれ。その話にして散漫にして秩序なく、全體としての系統が立つてゐない時は、その話の趣旨を捕ふることができず。且つ系統的の知識を得ることが出來ない。

六、簡単にせよ。その話にして餘りに冗漫に流れるときは、技業に亘りてその

要點を捕捉し難からしめ、加之、兒童をして疲勞倦怠に陥らしむる虞れがある。けれども話は大低長くなり易く、短くは氣がすまぬ様な氣がするものである。故に、簡潔は話の要訣なることを明記し、その中心を辿つて簡単に幕進すべきである。

七、擴大せよ。話すべき多くの事を有してこれを簡単に話すことを要する。話すべき事を多く有せずして簡單なるは話を直に徹底せしむる事ができない。けれども詳述せんとする場合には大低これに要する背景に乏しい。故に話さんとせば十分に調査研究し十分な材料を有し伸縮自在が容易になるまでの準備が必要である。

八、熟達せよ。練習せよ。物事は萬事準備を必要とするがお話の場合は先づ下稽古が大切である。世界の雄辯家を以て知られたグラットストーンは、演説する前には原稿を作りてこれを幾回となく練習し、而して家庭のものに一應話し、その了

解ができるか否かを檢し、然る後に演壇に立つた。グラットストーンにしてこの準備あり、吾人は以て他山の石とすべきではないか。而して同一話を繰り返へすことは熟達すべき最良の方法である。幼兒であれば同一話の二度聞きを好む。これを要するに「反復は話上手の母であつて、準備は上手にクラスを纏める秘訣である」。

九、對衆を知れ。教育には兒童の本質を知るを要する如く、お話の場合にはその對衆の心理を知らねばならぬ。對衆は數多であつても別個の心としてこれを取り扱ふてはならない、必ず一群の心理として統一されなければならぬ。即ち對衆を群衆化せしむることが必要である。而して、天氣具合による室内の氣分、疲勞倦怠の状態等を常に注意しなければならぬ。久留島氏が「よく語らんことを努めんより、よく聽かせん事に注意せよ」とは誠にこの消息を教へたものである。猶細い注意事項等は一二にして盡さないが、今は一般的根本的な事のみの大要

を列舉したに過ぎない。附録「大會に就いて」の下にその不足の幾分を補ふことにするを以て請ふこれを参照せられん事を。

### 第九章 執行の順序

日曜學校を開くには一定の執行順序が必要である。一定の執行順序といふも、各學校は各々その境遇事情を異にしてゐるのであるから、劃一的に各學校に通用すべきものを定むる事は困難であるが、唯その學校に於て如何なる順序で執行すべきかといふ事は定めて置かねばならない。

今便宜上宗教大學日曜學校に於て、行つてゐた所のものを中心として述べ參考に供したいと思ふ。各學校にてはその境遇方針等により取捨選擇せられんことを望む。而して、執行の順序には大體二つの形式を必要とする、即ち通常の場合と特別の場合とであるが、特別の場合は年中行事の章下で改めて説くこと、し今は

通常の場合に就いて説くこととする。

### 一 順序と時間割

- 一、打鐘(振鈴)、整列(始業前五分乃至十分)
- 二、一同講堂に入る(入口にて生徒章を受取る)
  - 1. 禮拜
  - 2. 月影二唱
  - 3. あつとめ(黙禱) } 三十分
  - 4. 訓話(校長又は主任)
- 三、各組各々入室(擔任教師引卒)
  - 1. 教話 } 一時間
  - 2. 讚佛歌

- 3. 休憩(出席點檢) | 十分
- 4. 話
- 5. 出徒章の配附 } 四十分
- 四、再び一同講堂に入る。
  - 1. 諸般の報告
  - 2. 讚佛歌、又は校歌 } 十分
  - 3. 禮拜
- 五、退場。解散。

### 二 執行の方法

先づ最初の打鐘整列であるが、これは始業の時間前五分乃至十分に鐘を打つか又は鈴を鳴らして始業時間の報告をする。而して入口に少さい組を前にして順次

に整列せしめる。整列といふても一々號令をかけて型にはめたやうに窮屈にする必要はない。教師は小さい組は前列にといふ様に暗示指導を與へるに止め、間接的の位置に立ち、子供に自由に整列させることがよいと思ふ。これは始まりは少々困難であるが、訓練すれば間もなく児童は鐘が鳴ると直ちに教師がゐなくとも、獨りて整列するやうになる。こうすれば整列する事を苦痛とも感せず、而も自治的に規律的良習慣を養ふことが出來て頗るよい。

次に教師が先頭で講堂に入るのであるが、その入口でカードを受取ることは輕便でもあり且つ整理上の都合もよい。一同が全部入つて了つたら、オルガンの合圖で佛前に禮をなし、後、各宗々歌又は讚佛歌を合唱する。

次に「あつとめ」を行ふ、これは「あつとめ」の合圖で閉目せしめ黙禱せしむるのであるが、この「あつとめ」の際に、信條・祈願文、又は歎徳文等を讀誦することもよいと思ふ。又前の一句を教師(司會者)が讀み、次に児童をしてこれに續きて

共に祈願文なり歎徳文なりを讀ましむることも一法であらう。この祈願文なり歎徳文は一の莊重なものであつて而も児童に了解し易きものたる事が必要である。

(宗大日曜學校では自分の關係してた時分は成文として適當なものができなかつたので黙禱に止めて置いた。)この「あつとめ」(黙禱)の際に最初の中はクス／＼笑ひ出すものもできるが、このとき威壓的に大聲にて叱責するやうなことをしてはいけない。叱責などすればその事によつて返つて黙禱を亂して了ふ。依つて身を以て敬虔な態度を持って模範を示し、且つ靜かに了解の出來るやう戒めてこれを訓致せしむべきである。

次に訓話であるが、訓話といふと嚴めしい顔をしてむづかしい事をいふべきものゝ如く考へてる人も多いやうであるが、これは大變な間違で児童の知識能力に應じて徹底し實行せしむる事を主眼とすべきである。而してこれはその週内に於ける特別な宗教的行事又は家庭勤行に關してとか、或は社會上に起つた活事實の

宗教的又は道徳的訓練に必要な事項を、單刀直入的に話す——童話の間接的遠曲なるに反して——もので、成るべく簡單なるを可とする。

次には分級して各々の課程を授ける。而して下級の組には教話の時間を短くして、後は讚佛歌又は同遊戯等を教授し、上級の青年少年等の組には教話の時間を十分にとりて唱歌等の時間を短くすべきである。

休憩の時間には、晴天であつたなら戶外に出て遊ばしめ教師も共に出てこれを監督した方がよい。

次に、出席の點檢とカード(生徒章)の配附は、兒童を騒がしたり亂したりし易いもので、特に教師の不足な場合はそうである。かゝる場合には兒童に仕事を與ふる事が肝要である。例せば教師一人にて男女兩方の出席點檢をなさなければならぬ様な場合には、カードの配附もこれと同時に進めて、教師が男子の方の點檢をしてゐる時は女子の方は、校友(出身者)又は組中の幹事といふが如きものに命

じて、カードを配附せしめるのである。而して男子の出席點檢が終へて女子のを點檢する場合には、同一方法にて、男子の方はカードを配附せしめるやうにするのである。

次に最後に解散の際は、宗大日曜學校では一同揃うて「さやうなら」の挨拶を教師と交はして別れる事を行つてゐるが、これは秩序を保持する上からしても、又往々有り勝ちの下駄の間違ひなどを一應調へさする上からも大變よいやうである。

最後に一言すべきはその執行の時間であるが、これは午後よりも午前がよい。午前は空氣も清新であるし、各自の精神も緊張してゐるから能率を擧げる事が大である。小學校にありても午前と午後とその時間が互る場合には、午前の時間を多くして午後のは少くすることを原則としてゐる。心理學者の説によると、兒童の記憶力は、午後よりも午前の方が二十四プロセントも善いといふ事である。猶、家庭の上からいふても、午前は日曜學校にやり午後は使に遣すなり、又は何處か

へか一所に連れて出掛けるなりすると大變都合がよい。これ等の理由の下に午前  
に執行するを原則としたい。けれども、種々の事情により午後これを執行する  
も勿論何等妨げはない。これは一往比較上の事であるから。

## 第十章 賞罰及び獎勵

### 一 賞 罰

品性の陶冶は、常に善を好み惡を嫌ふの習慣を養ふにあるのであるが、この方法  
としては兒童の自由活動等に依る自律的方法によると共に、教師の教權に依り積  
極的に善を行ふことを命令し、消極的に惡を禁止する他律的方法に依る事を必要  
とする。これ兒童の品性は猶ほ未だ形成の途中にあるものであつて、誘惑にも陥  
り易く極めて不安な状態にあるから、何等かの強き力即ち教權といふ如きものに

依つて纏められる事の必要があるからである。而してこの他律的訓練の一方便と  
して賞罰なるものが肝要である。

この賞罰に就いては、古來より種々の議論がある。即ち賞に就いては、賞は外部  
よりする一の獎勵の手段なるが故に、これを用ひて善行を獎勵することは賞を得  
んが爲めに善をなす弊に陥り義務心を弱くし、偽善に陥らしむる慮れあり、又、賞  
與の爲めに虚榮心功名心を養ひ或は賞せられたる爲めに慢心を生ぜしむる等の弊  
害である。次に罰に就いては、自由主義によるルーソー、モンテッソーリ等の説  
によると、兒童は之れに自由と平和とを與ふるときは、却つて責任を感じしめ惡を  
爲さざらしむるものであるから、罰を行ふが如きは、教育法の失敗といふべきで、  
罰を行ふときは兒童の恐怖心を刺戟して却つて内心よりの悔悟せしむることな  
く、寧ろ怨恨の情を抱かしむるものであるといふのである。

これ等の説は一應傾聽に價すべきものであるが、弊害の一面をのみ見たもので

あつて眞理とはいはれない。知識經驗に乏しく且つ自己本位たる兒童にあつては前述せる如く他律的訓練が必要なのである。即ち命令禁止によりて兒童の非行を矯正することができざる場合には止むを得ず罰を用ふべく、又賞によりて兒童をしてその善に對する自信と自重とを喚起し、且つその意志活動を大ならしめ益々善に向はしむる爲めにはこれを有效とすべきである。彼のルーテルが曰ふた如く、吾人は右の手には鞭を持ち左の手には林檎を持つて教育しなければならぬ。唯この方法の如何を研究しなければならない。今左にこれを考察して見やう。

賞 先づ賞を行ふには、物品、賞狀、賞牌、徽章等を用ふること、特權を與ふること、及び人衆の前にて表姓する等種々の方法があるが、これ等は其の被賞者の年齢、境遇、賞すべき事柄等により適當にすべきである。即ち幼兒及び貧兒には物品を與へ、高年になるに従つて特權を與へ又は衆人の前にて表姓するのが有

效である。日曜學校などには、記念日、大會等の機會を利用すべく、又物品を與ふるとすれば學用品又はこれに因めるものが適當であらう。

次に賞を行ふに就いての注意事項を列擧すれば

一、賞はその善行に對する満足の意を表す印として行ふべきこと。若しこれを單に獎勵の手段に用ふるならば、善事をなすに當つて、その事自らに對する興味又はその事をなし遂ぐるといふ義務心よりする事がなくなり、賞を得んが爲めに外面的に善をなすといふ弊に陥る。

二、善行の動機及び性質を知ること。結果のみを見てこれを賞してはならぬ。偶然的なもの、又は何等の努力なき善行に對しては敢て賞を與へざるを可とする。賞は必ず内面的努力によつて成し遂げたる事柄にのみ行ふべきである。

三、賞は公平なるべき事。公平は教權を維持するに最も大切なるものであるが、賞を行ふときは特に注意する事を要する、他の嫉妬、猜疑を誘發するやうな



ことがあつてはならない。

四、賞の濫用は効果を減ずる。餘りに濫りにこれを行ふときは、自尊心、責任感念が薄らぎ、又高慢心などを起さしむるに至る。山海の珍味もこれを常用するときは平食と異らず何等美味を感じざるに至ると同様である。

五、賞は兒童の感情に於て満足するものを與ふべきこと。即ち、兒童年齢及び發達程度に應じ、又境遇の相異によつてその種類を異にするやうにしなければならぬ。これは前述せるが如し。

罰 罰には體罰、自由罰、名譽罰等の種類がある。體罰は身體に苦痛を與へてこれを懲罰する方法で、これは最も原始的のもので、これは用ゐざるを可とする。何となれば改悟といふよりも反抗心を抱かしむる虞れがあるからである、次に自由罰は禁束、作業の命令等である。名譽罰は衆人の前で叱責し精神的苦痛を感じしむるものである。これは有効であるが、その方法如何によつては名譽心

を損し自暴自棄に陥らしむるやうなことがあるから注意すべきである。

それで罰に就いての注意事項をあぐれば

一、罰は兒童の反省を促しその悔悟心を起さしむることを主とし、決して自己の私情を交ふべからざる事。教師は大なる同情と愛とを以つて兒童に臨み、その惡を改悟しその責任を感じしむる様導かねばならない。

二、罰は屢々これを反覆せざる事。賞の濫與がその効果を減ずると同様に罰も反覆するときはその効果を減ずるものである。彼の常習犯の如きは、罰を何とも思はなくつたものである。餘り小言のみをいふてゐるときは「ア、又始つたか」と蛙鳴蟬騒と聞くに至つて了ふものである。故に教師たるものは、兒童は自己の反映たることを考へ、自己を反省し、その罰を施さねばならぬ事柄の起る理由を熟考するの必要がある。

三、兒童の道德的能力を考察し、罰の程度及び方法を選ぶべきこと。若しその

程度及び方法にして宜敷を得なかつたならば、到底その効果を見ることができない。依つて同一の非行に對しても必ずしも同一の罰を課すべしとは限らない。けれどもこれが爲めに不公平を招くやうな事は十分注意しなければならぬ。

以上は罰の注意事項を列擧したが、これ止むを得ざる場合の最後の手段であつて、由來、罰は訓育の失敗を自白するものであるから、教師たるものは常に罰を加ふる前に先づ自分を反省する事が必要で、不斷よりこれを未然に防ぐ事に留意しなければならぬ。而して萬止むを得ざる時は罰を施すべきも、成るべく軽くその度を少くするといふ事を原則とすべきである。

## 二 獎勵

日曜學校を經營するにはその對象たる兒童が第一の要素であることは前述せる如くであるが、この兒童をして繼續的に出席せしむる事はその目的理想を遂行す

る上に必要なことである。兒童の出席常ならず出入の多い日曜學校は、如何程數多の兒童が來ても、その効果を十分にあげる事は不可能である。然れども日曜學校なるものは、元來何等義務的關係より成立して居るものでもなく全く自由であるから、兒童に出席を強制するといふ事は出來ない。これは一面日曜學校の尊い點でもあるが、經營者にありてはこの點は困難な所で、十分の顧慮と種々の畫策となさるゝ所である。此處に出席の獎勵法如何といふ問題が起つて來る。

兒童の出席獎勵法如何といふ問題は、實際經營者の間には大分論ぜられてゐるやうであるが、その獎勵といふことにのみ餘りに熱心なる結果、その獎勵するの根本義を忘却して、獎勵の爲めの獎勵を行ふ傾きとなり種々なる弊害を醸すに至る。特に日曜學校が隣接して二つ以上も存在するが如き所にては、その兒童の吸收、出席獎勵をのみ考ふるときは、兒童の甘心を買ひその機嫌を取らん事のみ汲々として、教化の眞意義を忘れ、日曜學校設立の趣旨に戻るやうな結果を招くやう

な事は往々にして見聞する。これはお互に注意すべき事である。その根本第一義の上に立脚する事を忘れてはならぬ。

而してこの獎勵は、その根本を忘れ度を越すに於ては、單に兒童教化に惡結果を齎すのみならず、獎勵が却つて獎勵とならず、日曜學校經營そのものを危地に陥らしむるが如き場合も少くない。例せば菓子が無暗に興へたり、毎回藝人の類を呼んで鳴物入れにて景氣づけたりすることは慎まねばならぬ。これ等を行ふときは最初は珍らしくもあり面白くもあるから兒童は澤山に來校するかも知れぬが、然れども、如何なる珍奇美味な馳走でも、それに馴れば、うま味を失ひ飽きて了ふと同様に、毎回これを續くるときは兒童の方では餘り興味を惹かなくなり、今度は以前よりは刺戟の強烈なものでなければ喜ばないやうになる。かくして進んで行くときは一方材料は無くなるし、兒童の感興は惹かなくなり、従つて出席兒童も漸次に減少して了ふやうになる。又經營者は經濟上も困難となり、兒童の出

席も減少する所から、終には日曜學校の閉鎖といふ運命に立ち到らしむるのである。而して教化上からもこの方法の數多の缺點を有する事は勿論である。

然らば、次に獎勵の方法は如何といふに、これは本質的と間接的との二に分けることが出來やう。即ち間接的の獎勵法として最も多く行はるゝものは、カードの使用である。カードはその表面に美しき繪を畫き、その傍らに、それに因める聖句を入れ裏面を出席表でも作つて置くときは、一面には獎勵の方法ともなり、又教科とこれを關連せしむるときには印象も一層明瞭ならしむるの效果がある。又時々大會(祝賀會)を開き、運動會、遠足等を催すことも獎勵法となる。勿論これ等はそれ自らに於て、各々その目的と意義とを有してゐるが、學校と家庭、教師と兒童との連絡親密を計り、且つ、兒童をして單調を破り本性的にこれを喜ばしめ樂ましむる點に於て、間接的の獎勵となるものである。故に之れ等を適當に施行することは有效である。

次に本質的の獎勵としては、方法手段に離れたる日曜學校そのものでなければならぬ。即ち日曜學校の氣分が兒童のそれと合致することである。元來子供は天真爛漫たるもので至極正直であつて、自分に興味の感ぜざること、氣の向かないことは容易にしない。けれども、自分の興味を感ずることは好んでこれをなすものであるから、日曜學校へでも、それが彼れ等の氣分に合し興味を惹き得るならば、兒童は自然と出席する。それには、教科の内容、學校の設備等も勿論大切であるが、その中最も強大なるものは、教師の熱心と愛とである。教師にして、不屈不撓の熱心があり、兒童の眞の同情者であり、眞に兒童を愛するものであつたなら、その愛は兒童を引き附くる力となり、その熱心は家庭を動かす、社會に共鳴を與ふる動力となり、日曜學校の實績を擧げ發展を期する事ができる。

## 第十一章 經 費

大凡事業を經營するのには、その事業を起しこれを經營する金と、これを運用する人が必要であるが、人に關しては前に屢々論じて來たから、今は金、即ち經費の事に就いて述べる事にしやう。

先づ、日曜學校の經費は誰れが負擔すべきかといへば、その所屬寺院或は經營者がこれを負擔すべきは勿論である。日曜學校經營の困難又はその盛衰といふ事は人の問題に歸する事は争はれぬが、經費の問題といふ事を等閑にする事は出來ない。經費の問題といふも、事實その經費を得るの途が容易に講ぜられないといふ場合もあるであらうが、出資の途は十分あるに拘らず、これを實際にその有意義な事業の爲めに冗費を省いてまでも投じやうとする人が甚だ少いのではなからうか。換言すれば、金がないといふ事よりも、金を出さうとする意志が無いといふ事實が多いではなからうか。又一時的のお祭騒ぎの事に對し、又は外觀的の催しに對する金は十分に費す事を欲するが、永久的な堅實な日曜學校の事業に對して

は金を投ずる事を躊躇する。これ一般在來の僧侶の無自覺と、布教は老人にのみ限られて居るものとなす因襲に捉はれてゐるに起因するものであらうが、若し眞に活ける力ある人を造り、堅實なる第二の國民の教化をなすべき日曜學校の事業が如何に有意義で力ある事なるかを自覺したならば、他の種々なる冗費を節約し、或は、新にこれが爲めに經費を投ずる事は容易に出来るであらう。

然しながら、日曜學校の經營は永續的の事であり、次第に發展するに従ひてその範圍も擴張さるべきものであるから、その入費は僅少ではない。依て若し經費にして困難を告ぐるが如き場合は、單に經營者にのみこれを負擔さすべきでなく、苟も社會的の有意義なる事業なる以上社會はこれに對して相當の援助を與ふる事が當然であると思ふ。それで先づ、組内寺院、教區、宗務所等は相當の方法を以てこれを援助すべく、又延いては一般檀信徒もこれに寄與することの責任があると思ふ。けれども事業の性質上かくあるべきであるが、經營者は最初からこれを欲すべき

ではない。經營者は一意事業の爲めに精勵すべきで、社會の人はこの熱誠と事業とに對し、感激して寄與するものでなければならぬ。即ち寄附金の如きは、先方の人がある事業を了解し賛成して進みて寄與せられたる場合はこれを受領する事は勿論よいが、未だ事業も起さずその成績も何等擧らざる中に、名目等を並べて寄附を強制するが如きは避けた方がよいと思ふ。若し他の寄附を仰がんとするならば自己の努力と事業の成績が一般に認められた上にすべきで、特に寄附を仰いだが爲めに先方に容喙の權利を與へ矢鱈と干渉を受け、その主義方針等を實行するに支障を來すが如き事は無さやうに注意すべきである。

次に、兒童より月謝を徵集すべきや否やの問題であるが、これは地方の事情、學校の設備如何等によつて異なるべきであらう。現にコロンビア大學日曜學校などにあつては、不良又は卑陋なる家庭よりの惡風の侵入を避くる爲めに、知識階級又は富豪の家庭の子弟を選ぶ爲めに、一ヶ年十四弗の授業料を課してゐる。かく

特別なる所にありては、設備を完全にして相當の月謝を徴集する事もよいであらうが、けれども宗教々育を一般的にし、特に未だこの事業が了解されてゐない目下の現状にあつては、大體に於て、月謝は徴集せざる方がよいと思ふ。但し、生徒章、メタル等の實費代、又は遠足を行ふが如き場合に電車賃、菓子代等を徴集する事はよいと思ふ。寧ろその費用の全部を學校で負擔するよりは、實費だけ父兄よりこれを徴し、その幾分を學校にて補助するといふ事がよいと思ふ。而して、その徴集する場合はその出費の要件を書いて父兄に知らしむる事が必要である。

最後に、最近一般社會事業に於ける經濟を得るの方法としては、從來の如く會費又は寄附金のみならずして、積極的に醸金の方法が講ぜられてゐる。即ち各種の慈善市、慈善音樂會、慈善觀劇會の催等しである。更に進んでは、印刷、木工、各種の販賣等、所謂營業部の設置であつて、その利益を以て事業の經營費に當てる方法もある。日曜學校費の醸金法としても、亦參考となすべきである。特に、自

分としては、善良なるフィルムを選定し、活動寫眞會の開催等は最も良い方法と思ふ。これは、單に經費の醸金といふことのみならず、活動寫眞の改善、社會教育、宗教々育の一助等、日曜學校の事業としてもよい事と思ふ。

## 第十一章 年中行事と特別日

年中行事及び特別の集會を施行する事は、宗教的情操を無意識の中に培養し、又は、宗教的道德的訓練の實習の機會を與ふる上に、教科目の教授と共に重要な意義を有してゐる。加之、日曜學校と家庭、教師と兒童との親密を増す上に、最良の機會であり方法である。普通一般の所謂お祭騒ぎとは、その趣を異にしてゐるものなる事を記憶してゐなければならぬ。

而して茲に一考すべきは、この種の催が餘りに多過ぎるときは、肝腎な宗教々授の授業日數が、不足するといふ虞れがあるといふことである。これは至極尤も

の事であるが、けれども、これ等の催は、何時も日曜日のみ行ふべきものと限つてゐない。假令、日曜日に行ふにしても、一日の授業時間の全部を、これに費すの必要はなく、或は授業時間の初めに、或はその終りに於ても行うことが出来る。依つて、經營者が隨時適當の方法を講ずることによつてこの虞は除去される事であらう。況して、これ等の催は、宗教々授の一方面、一方法である事を考ふるときは、その時間の一部を割くことは當然の事であらう。

### 一 年中行事の執行法

年中行事として行はるべきものは、新年會、宗祖御忌會、花まつり、校友推薦式、創立記念日、魂まつり、成道會、涅槃會、忘年會等である。執行の方法等は、その地方の情況、その會の性質、その時の具合等によりて適宜に行ふべきであるが、次に參考までにその方法の一斑を述べやう。

### 新年會

新年を祝賀する催で、この開催の日は、正月三日以内、若しくは、第一日曜を最可とするが、正月中適當に執行すればよい。式次は

一、禮拜 二、君ケ代 三、佛前回願

四、新年訓話(校長又は主任) 五、月影又は讚佛歌

位に止め、暫時休憩の後、第二部に移り、お伽噺、唱歌等——兒童にもなましむるが可——をなすか、又は、かるた遊び、羽根つき、凧揚等、各地の正月の遊び事をする。この際は、教師は監督の位置にあつて、傍觀してゐるよりは、その仲間の一人に加つて共にこれを行ふことがよい。

又、その午後からは——或は夜に——日曜學校の出身者(青年會、處女會、校友)の會を同様な方法(但し青年向きに)に依つて行ふ。而して、雑煮なりしるこなりで會食をすると一層良い。兎に角、この日は飽くまでも晴れやかに愉快に一日を送るやうに會を済ます事が必要である。

宗祖御忌會 宗祖の御忌日を期して、その芳躅を偲ぶのであるから、儀式も莊重に行ひ、兒童に深き感銘を與へ、宗教情操を誘發せしむるやうにせねばならない。式次の一例を擧ぐれば

- 一 禮拜
- 二 月影(宗歌)
- 三 佛前回顧
- 四 兒童代表燒香獻華
- 五 校長訓話
- 六 宗祖讚歌

日時は御命日が理想であるが、學校の都合が丁度に行かない時は、これに最も近き日曜に營むのがよい。次に儀式は莊重で簡單なるを可とする。莊重でも長きに失するときは、却つて式を亂すもとであるから注意すべきである。宗祖の讚歌の外宗祖に關する唱歌、例せば御一代を謠へる唱歌の如きは二三週間前よりこれを教授すべきである。且つ又宗祖の遺跡の地、又は寺院がその學校の近くにあるときは其處へ生徒を引卒參拜せしむるが如き事はよいと思ふ。

花まつり 釋尊の降誕を祝賀する會であるから、この日は、救濟主としての

佛陀の誕生が、如何に人類に大なる光を與へ力となつてゐるかといふことを知らしめねばならない。而して誕生の喜びを祝ふのであるから晴れやかな歡喜に滿てる一日を送らしむべきである。

各寺院にありては、從來大低何處でも花御堂を飾り甘茶を參詣人に施與するのが例であるから、これを兒童本位として利用すればよいと思ふ。それで式後は春の大會を兼ねて行ひ、兒童をして、お話、對話等をなさしむる事はよいと思ふ。

大會については附録としてこれを掲げることとする——式次を參考の爲めに掲ぐれば

- 一、君ヶ代
- 一、獻華
- 一、歎徳文
- 一、訓話
- 一、花まつり唱歌
- (休憩)
- 兒童の對話、おはなし等。

兒童をして獻華せしむる方法には、全體の兒童に各自新鮮な花を持參せしめ、一定の所に獻ぜしむる方法と、男女各々代表者を選定して獻ぜしむる方法と二様あ



るが、前者は、全體の兒童に花まつりの印象を深からしめ、結縁の上からも非常に有効であるが、混雜するといふ恐れがある。後者は式中に行ふとすれば、式が簡單に綺麗に行ふといふ長所がある。依つてこれは、來會者の多寡、會場の廣狹、式次の都合等に依つて適宜にすべきである。次に歎徳文は、口語體に簡單に作り兒童代表者をして讀ましむることがよい。

更に釋尊は各宗の教祖なるが故に、各宗聯合にて舉行する方法である。現にこの方法に依り、各地で大々的に毎年行はれるやうになつて來た。今は參考の爲め東京聯合花まつり會の式次を掲ぐると

- 一、奏樂、入場 二、開會宣言 三、國歌二唱 四、勅語奉讀 五、歎徳文
- 六、花供養 七、花まつり唱歌 八、花御堂授與 九、隊伍行進 十、宮城參拜。

勅語は最初は教界知名の師が奉讀したが、この二三年は矢張り兒童の代表者をして奉讀してゐる。

### 校友推薦式

これは小學校なら卒業式に相當するものであるが、日曜學校では卒業といふことはあるべきでないから、少年部の全科が卒へたものをその上の青年處女部へ編入する式である。(今自分は、この青年處女部を特別な名目をつけず校友と呼んでゐるのでその儘の名を此處に依用した)この校友の事に就いては、章を改めて述べる考へであるから今はこれを述べる事を略すが、唯これは花まつり、若くはその他の大會の折に併せてこの式を行う事がよい。

### 魂まつり

これはお盆祭、精靈會として古來より佛教の年中行事として行はれてゐる所の盂蘭盆會を、兒童を中心として行ふのである。これは未だ殆ど行はれてゐないが、祖先崇拜の觀念を養ふ上からも、佛教の國民的行事を益々徹底的ならしむる上からも是非盛に行はれる事を望むものである。開催の日は、盆中三日間の都合のよい日を選ぶべきである。晝行ふ事が出来なかつたなら夜行ふ事は寧ろ神秘的でよい。而して夜に行はるゝ様な場合には兒童に各自子供用の盆提

灯をつけて持參せしむるか、又臘燭を一本づゝ持參せしめ、これを佛前に式の際點するが如きは、神秘的で且つ印象を深からしむる點からも有效である。

又生徒若くは教師中に新盆に相當する人があつた場合には、その新盆供養も併せ行ひ、讀經中にその新盆の亡靈の親友に友人代表として焼香させる事がよい。又式後には魂まつりに因める對話を兒童になさしめ、或は佛前に供へた供物の菓子を歸りに一同に分與する事も一方法である。要するに淋しき悲しき印象よりも、シンミリとしてゐる中にも賑かな氣分を興へることが必要である。

**創立記念日** 學校の創立の日は何等かの方法に於てこれを記念せねばならない。これは愛校心を増さしむる上に必要な事である。創立の日は、一週間に一度の日曜學校にありては、何月の第幾日曜といふ具合にして置く方が便利である。その方法は種々あるのであらうが五週年十週年といふ時は特別に大々的にこれを行ふ方がよいであらう。

**成道會 涅槃會**

釋尊の成道又は入涅槃の日は、これに最も近き日曜の日に於て、特別に成道會又は涅槃會としてこれを行はないまでも、始業前簡單に講堂に於てその記會すべき日を兒童に記憶さすべきである。けれども成道や涅槃の抽象的説明は兒童には了解できぬからして、修業の勇猛精進の状態、降魔の事等を話し、その修行は衆生濟度の大慈悲の發現からであること、及び成道によりて世界の四聖の第一人者となられた事等を具體的に説話を試みるのである。又涅槃についてはその神秘的莊嚴優美なる状態、或は釋尊は入滅されてもその尊き教法は三千年後の今日に至つても猶ほ存し幾百幾萬の人を救濟してゐること、その恩徳の高き無比なる事等を具體的に話すのである。

**忘年會** 年末最後の日曜に行うものであつて、過去一ヶ年間の種々なる出來事を追想し、又無事に愉快に一年を送り續け得た事を佛天に感謝せしむるのである。これも講堂にて始業前に簡單に行へばよい。

## 二 特別日の執行法

特別日としては、母の會、追悼會、送迎會、兒童の誕生日、祖先の命日、遠足及び野外散歩等である。

母の會(父兄會) 兒童の教育は家庭を離れては完全に出來得ない。特に情操の培養を主とする宗教々育にありては、家庭は實に重大なる力を有してゐる。故に日曜學校にありて、眞にその目的を達し完全なる成果を收めるには、家庭と相俟ち相提携しなければならぬ。これには日曜學校の事は家庭にも了解されて居り、家庭の事情及び父兄の意見——特に日曜學校に對する——等は一應日曜學校の方で知つて置く必要がある。依つてこの家庭と日曜學校との連絡を計り互に意見の交換をする爲めに父兄の會なるものが必要である。父兄の會といふも兒童の教育に關しては、母が大部分與かるのであるから母が最も重要なものである。依つて寧ろ母の會としてこれを催す事が適當である。而してこの會の際には、單に懇談に止めずして専門家を招き、育兒法の講話、又信仰談話等を併せ行ふ事は一層有意義である。

### 追悼會

教師又は生徒が死亡した時は、早速追悼會を行ふべきである。而して兒童の場合であつたなら、家庭に案内して父兄を初め家族の人々に參列して貰ふ事を忘れてはならない。參考の爲めにその順序を掲ぐれば、

- 一、兒童入場
- 二、家族來賓入場
- 三、導師入場
- 四、追悼讀經
- 五、兒童總代弔辭
- 六、校長又は擔任者の追悼談
- 七、哀悼歌。

讀經中に、その家族來賓及び兒童代表者に焼香せしむることは普通の式と同じであるが、弔辭を讀ましむるものは、故人と最も親しかつたものを選びて讀ましむべく、猶、その文章も兒童自らに作らしめ教師は訂正の勞を取るに止めて置くを可とする。

**送迎會** 教師又は校友が他郷へでも行く場合、又は遠方より歸つて來た場合には、その人の爲めに送別會又は歡迎會を開くのである。これは恩義を厚くし友情を温むる上に非常に有效であつて、これ情操教育の實習の機會ともなるものである。

**兒童の誕生日** 兒童の誕生日は簡單でもこれを祝するがよい。或る特定の日曜を選び授業がすんでから後にも、その月なり週なりに誕生せる兒童を特別の席に着かしめ、主任(擔任)はその名を讀み上げて祝辭を述べ、一同をして誕生祝賀の歌を合唱せしむる等はその一法である。又幼兒に對しては鯛の形のカードにその祝賀の文句でも入れて贈るなども一法である。

**祖先の命日** 祖先の命日を兒童に知らしめ、兒童をして新鮮なる花を献ぜしめ、又、父兄と共に墓參せしむるが如き事は家庭と相俟ちて、日曜學校に於て獎勵すべき大切な事の一である。これ祖先崇拜の念を養ひ、且つ祖先を通じて佛を

崇敬せしむるに非常な力となる。

新潟縣の敬虔なる某教師は、次の如き方法を以つて良好の成績を擧げてゐる。その方法は、學校々庭に花壇を設け、教師は生徒と共に種々なる花を栽培し、而して、毎日家族の命日を聞き、その祖先の命日に相當せる家の兒童にはその花の一部を切り與へて、家へ持參せしめ、これをその靈前に供へしむるといふのである。以つて範とするに足るであらう。

**遠足及び野外散策** 春又は秋の一日を選び遠足を催すことは一面には獎勵法ともなり、教師と兒童と親密にもなり極めて有效である。その場所の選定に就きては、宗教心の培養に適する所、宗教上に關係深き所、危険のなき所等を標準として選ぶべきである。而して前以つてその近くの寺院と交渉して置いて、中食はその本堂なり庫裡の一部ですますこととし、猶茶菓の接待でもして貰ふが如き便利があれば、小學校の遠足にては味ふべからざる情味を感じ、一層有效である。

又、天氣晴朗なる日には、隨時に近郊に散歩し、教師も兒童と共に或は花摘みをし、或は遊戯をなすが如きは、兒童の個性をも知ることが出來、又兒童とも親密になり頗る有効である。又この散策を利用して近くの古蹟調べをなすが如きは最も有効である。

### 第十三章 夏期植民と兒童圖書室

#### 一 夏期植民と兒童交換

夏期植民サマーコロニーは或は休暇植民バケーションコロニーといふて、夏の休暇を利用して、都市の兒童をして或る期間を限りて地方の海岸又は閑寂なる村落に移住せしむる方法で、これ最初は身體の虛弱なるものを救済するの目的でなされたものであるが、近來はこの上に精神的營養分を與ふるに非常に力あるものであることが一般に認められて來た。

依つてこの事業は、宗教々育の上に寄與する效果の偉大なるものがある。

境遇の人に及ぼす影響の大なる事、特に兒童にありては著しきものあること、及び自然が宗教々育の要素として重要なものなる事は前に一言した。この偉大なる教科書であり教師である自然の所有者は實に村落であつて、村落には都市に見るべからざる、休息あり、沈黙あり、變化あり、美あり、猶、種々なる特色を有してゐる。これ等は互に調和して無言の中に大なる感化を與ふ。特に兒童の宗教心の萌芽たるべき、不可思議、恐怖、畏敬、敬虔、及び奇蹟の存在の感等は獨り地方にのみ存在する要素である。都市はこれに反し、不可思議の表象を見ずして人と人によつて成されたる、不安、瑣末、輕微の印象のみを残す。依つて都市にある兒童は、地方に移住せしめて、自然の雄大、不可思議の實際的經驗を得せしむる事が必要である。依つて都會の日曜學校にありては地方の寺院又は日曜學校と連絡を保ち、二週間或は三週間の日を限りて村落に轉地せしむる事は、單

に身體の虛弱なるものに止らず、積極的に健康なるもの、精神的營養分を豊富ならしむる上に有效なことである。

この夏期植民は、都市の兒童に對して行ふべき方法であるが、然らば地方の兒童は如何にすべきか。地方は上述の如き幾多の長所を有するが又缺點も多く認められる。即ちその職業は原始的にして多く自然物を對手とするを以つて、粗野に流れ優雅を缺く。次に交通不便なるを以て、文明に遅れ常識に乏しい。又、人に接するの機會少きを以て、不作法になり易し。次に、刺戟少きを以つて敏活を缺く等である。故に夏休を利用して、これ等地方の兒童をして都會に連れ行き、諸種の新文明に觸れしめ、名前に詣でしめ、或は、美術館、博物館、動物園等を觀せしめて實物教授をなすと共に趣味を向上豊富ならしめ、又名僧名士に請ふて講話を聽かしめ直接にその人格的感化を受けしむるが如き事は有効である。それで、休暇を利用して或る期間、都市の兒童を地方寺院に於て世話をするに引き代へ、都市の

寺院が地方の兒童を迎へて宿泊の便宜を與ふるやうにするのである。

かく都市の兒童は地方へ、地方の兒童は都市へといふ如く、都市と地方と互に連絡を取りて兒童の交換をなすことを兒童交換といふのであるが、この兒童交換の事業は日曜學校の積極的の特別事業として有意義なものである。

## 二 兒童圖書室

圖書館又は圖書室を最も有効に利用せんとするには、先づ、兒童に書籍を善用する道を教へなければならぬ。但しかういふのは成人には書籍を提供するの要なし、書籍の善用法を教ふる要なしといふ意味ではない。唯讀書趣味の養成は成人に授くるよりも、小兒に授くる方遙にその目的を達し得るからである。これには兒童圖書館又は兒童圖書室なるものを、大人のものと同區別して設立する必要がある。

日曜學校に於てこれを設ける事は、宗教々育の補佐、社會教育の補充として有効である。日曜學校は宗教的教育的使命を有すると共に、社會的保護的の使命をも有してゐるのであるから、その使命を全うする點から必要のものである。而して又、これは間接的には獎勵の意味ともなるのである。

然らば如何なる書籍を集むべきかといふに、第一に宗教々育の補佐となるべきものを中心として集むべきである。即ち佛教概論、佛教史、佛教辭典、聖典、聖典の講義、教祖、佛弟子、宗祖及びその他の高僧の傳記、その他宗教的信仰的著述、本生譚、因縁物語等で、通俗平易なるものを選び専門的のものを避くべきである。この他教育學、心理學、教授法等の教育書をも備ふべきである。次に、社會教育の補充となるべき、哲學、歴史、文藝の通俗的なるもので、教育的で精神修養の資料たるべきものを選定すべきである。この他諸種の物語、お伽噺の書等である。猶、月刊雜誌も宗教的信仰的のは勿論のこと一般的のものも、その種類を選

定して備へて置くことを要する。

次にこの圖書室の管理法には三種ある。第一は圖書を全部開放して自由閱覽を許すもの、第二は希望に應じて書棚に收めた圖書を貸出するもの、第三は前の兩者の折衷であつて、或種の書籍は書函に收め希望によりてこれを貸出し、他は自由閱覽に供するものである。第一は最も自由で進歩的ではあるが、兒童はその選擇の標準などが不明な爲めに、自分の知識能力に適せざるものを讀ましむるやうな缺點がある。第二は保存上には便利だが兒童に未知の書籍を知らしむる機會が少く、又一寸見て選擇するといふ自由を缺くから、自然と閲讀の範圍を縮少し、その興味を殺ぐやうな失がある。依つて第三の折衷法は最も適切であつて、新刊書又は月刊雜誌類は露出して置き、他は書棚に收めて置き、教師が助言を與へてこれを讀ましむるやうにするのである。

## 第十四章 青年處女部の組織及び指導

### 一 目的及び使命

宗教々育は搖籃より墓場に至るまで連續すべきもので、而も、眞の意味の宗教々育は青年期を俟たねばならぬ事は前に屢々述べた。實に青年處女部の組織及び指導は最も重要な事で、一面から見れば、幼稚部少年部等は青年處女部の準備であるといふことができる。前にも一言した如く、往々にして日曜學校の意義なきことを論難するものは、大抵この青年處女部の組織指導といふことを考へずには知らずに居るものゝやうである。若しくはこれを知れる人にしても、日曜學校とは何等聯絡關係なき全然別個のものとして考へてゐるやうである。尤も、文部省、内務省の獎勵にかゝる所の地方青年團處女會といふものは、日曜學校とは

直接の聯絡のない別個の組織のものである。それで、今此處にいふ青年處女部といふのは、宗教々育を中心とせるもので、地方青年團的の名稱を用ふるならば、佛教青年會又は佛教婦人青年會ともいふべきもので、日曜學校の一部又はその延長であるべきものである。依つて、宗教々育の徹底を期するならば、是非少年部の上に青年處女部を設けなければならない。否、青年處女部を設ける事によつてのみ宗教々育も徹底し日曜學校も益々その效を奏する事ができるのである。故に、青年處女部の組織經營如何は日曜學校の成功不成功を裏書するものたるべく、換言すれば、佛教青年會なり婦人會なりは、日曜學校の一部又はその延長として組織する時に於て、最も堅實であり且つ有效であるといふ事ができる。

元來、青年處女部なるものは、日曜學校の一部又はその延長であるべきものであるから、その目的及び使命も日曜學校のそれと、その根本に於ては何等異なるべきではない。けれども、この部に編入すべきものは、大體青年期にあるものであ



つて、青年期は兒童期の完成の時期で、成人として將に社會に飛び出さんとしてゐる時であつて、その身心の發達が著しく、且つ社會的關係も種々複雑になつて來る時であるから、その組織指導といふ事も少年部のそれとは多少異なるべきが當然となつてくる。即ち、その目的に於て、宗教的な立派な人格者、更に剋實すれば、佛教の信仰に活くる社會的有爲の人間を養成するといふ點に於ては、何等異なる所がないが、青年處女部にありては、この個人の人格完成を目的とすると共に更に宗教奉仕、社會奉仕の對他的の高き理想を吹き込み、これが事實として現はるゝ様導くことが必要である。勿論、吾人が若し眞に佛の慈悲を感じ感謝の生活、信佛精進の生活が營まるゝならば、この佛恩報謝衆生恩報答の信念よりして、宗教奉仕、社會奉仕の獻身的犠牲的の尊き活動は當然行はるべきである。故に吾人は常にかゝる信念の養成に努めねばならない。

今左に、東都佛教界に於て最も古き歴史を有する三の輪淨閑寺内佛教少年耕學

會の青年處女部たる佛教青年同窓會の目的三條を參考の爲めに掲げやう。

第一、本會は佛陀の教旨を奉戴し、會員をして佛教徒たるの眞價を發揮せしめん事を期す。

第二、本會は會員協力して生活の向上を計り以つて永遠の教友たらんことを期す。

第三、本會は佛教少年耕學會の内助者たることを期す。

右の三條は、第一は佛教徒として人格の向上を期し、第二は佛教々團を中心とする相互扶助の實行、第三は社會奉仕としての少年部援助といふことになるのであらう。この會則目的等は、その地方色に隨うて各々異なるべきは勿論であるが、これを要するに青年處女部にありては、個人的人格の完全を計ると共に、佛恩報謝衆生恩報答の念よりして、社會奉仕宗教奉仕の實行が必然的に行はれる事が肝要と思ふ。特に、日曜學校に對する援助の如きはこれが第一着手として望ましいことである。

## 二 組織及び經營

青年處女部を組織するには、先づその主體たる會員は如何にすべきか、その會は如何なる事をなすべきや、その費用は如何にすべきや、即ち會員、事業、會費の三に就いて考察せねばならない。

**會員** 大凡會員を定むるに二様の方法がある。即ち、一は日曜學校の出身者又は在籍者のみを以つて會員となすか、又は、これと共に一般のものも會員となすかといふ二である。今この二者に就いて見るに、前者は會員の範圍が限定されるからして、會員を多く得る事が困難で、その發達遅々として進まず幾分消極的の傾向あるは免れ難い。けれども、これは少年部の延長であつて、畢竟日曜學校に對しての熱心者のみが、その會員となる事となるのであるから頗る堅實であり且つ會員同志も皆な親密なものゝみであるから、萬事に團結もし易い長所があ

る。次に後者は、開放的であるから會員は數多得られその量を増加せしむる事は容易であるが、又それだけ相互の親密も疎く團結もし難い。従つて堅實味の點に至りては前者より薄弱なる事は免れない。

それで、自分はこの兩者の折衷法を取り、その設立の當初にありては、日曜學校の在籍者若しくはその出身者のみを會員とし、十分の訓練が積み、その基礎が鞏固になるに及び、適當の時機を見て一般のものにも開放し、廣く會員を募る様にする事がよいと思ふ。而して、一般的に開放するにしても、成るべく舊會員の紹介者を入會せしむる事がよいと思ふ。

次に、入會の資格標準であるが、これには、年齢によりて定むる方法と、學校の修業年限又は卒業を標準として定むるものとの二がある。この兩者の中に於て年齢に依る方法が科學的で、身心の發達上十五歳を以つてその標準年齢とするがよいと思ふが、自分は、實際上の立場から、後者の方法を取ることが便利と思ふ。

特に、小學校卒業を以つてその標準とすることがよいと思ふ。何となれば、一般の兒童は小學校で一段落がつき、此處で各自その境遇に従つて各方面に向ふのである。依つて、この各方面に分散する時期に於て、青年處女部に編入し、新たな精神的の中心團體に結合する事は、極めて有意義であり且つ便利であると思ふ。けれども、その會の性質、地方の情況等により何れによるも隨意である。

而して、今假りに、その入會資格を日曜學校の少年部出身者に限るとすれば、換言して、日曜學校在籍者にして小學校を卒業したるものに限るとすれば、その當初の年にありては、高等科又は中學一年程度のもののみが、その會員となるわけであるが、これが五年十年とその年月を経過するに至ると、その會員は小さきは十三、四歳のものより大は二十五歳以上のものが出来るといふやうになり、會員中にもその思想經驗等に於て非常な懸隔が生ずるに至るやうになる。此處に於て、理想的には青年處女部なるものも、亦、これを幾組かに分ける事が必要である。

それで大體に於て、徴兵適齡を限界とし、二十歳以前を成年組とし、二十一歳以後を壯年組とでもすることがよいと思ふ。即ち

成年組——丁年未滿  
壯年組——丁年以上

若し、少年部の出身者が年々多いやうな場合にありては、成年組を更に二分し高等小學卒業又は、中學二年修業を以つて、その限界の標準とし、即ち年齢を以つてすれば、十三歳より十五歳までを一組とし、次ぎは十六歳以上二十一歳までを一組とするのである。かく青年處女部を細別することは事實上困難かも知れない。けれども、これをその訓練指導の順序段階として考へて置くことは必要である。即ち十三歳から十五歳までの間は、未だ少年部の域を脱せず、青年部員としての意識も明瞭になつてゐない。故にこの時期はその團體的精神を形成すべき準備と見るべきで、個人的接觸を主とし俱樂部的組織とするを可とする。而して、

二年を経て次ぎの組に入る頃に至れば、團體的精神、愛會心等が幾分できて來るから、規則的、課制的訓練を行ふに適するやうになる。依つてこの時期にありては會風團風といふものが形成され、一致共同して社會奉仕の事業等を營むことができるやうになる。

**事業及び會費** 青年處女部のなすべき事業として特に定つてゐるものはない。各々その目的及び地方の情況等によりて種々異なるべきであらうが、畢竟するに、會員自身の人格的向上を計るべき對內的事業と、その信念の發露としての宗教奉仕社會奉仕の對他的事業との二に分かれることと思ふ。而して、最初から社會奉仕宗教奉仕等を望む事は困難なことであるから、先づ最初の中は對內的の事のみを行ふことがよいと思ふ。即ち毎回その開會の時日を定め、精神修養を主とし、併せて相互の連絡親睦を計る會合を催すのである。その一法としては、最初佛前に於て簡單な儀軌を行ひ、精神講話（信仰的、宗教的）佛典の解釋、若しくは

研究等をなし、後、別室にて茶菓を喫しつゝ座談會でも行ふことがよいと思ふ。例會の回数は成るべく多きを望むものであるが、指導者又は會員各自の事情等を斟酌し、適宜にすべきは勿論であるが、毎月一回位開くことは最も必要のことと思ふ。而して相當に精神的訓練ができて團體的意識が出來たならば、對他的の社會的奉仕の事業に着手することがよいと思ふ。

次に會費は、例會その他特別行事に於ける實費等は、これを徵集することがよいと思ふ。この部員になり得る年齢に至れば、或は、消極的には平生より心掛けて冗費を節約することにより、或は、積極的には特別に何か働くことによりて、會費位は産み出すことができる。而して、會費を徵集することにより、會の經濟が圓滑に行くのみならず、彼れ等自身には「自分の會は自分で處理する」「これは自分の會である」といふ、自治心、愛會心が高潮されるやうになる。

### 三 指導の方法

「小さい時はよく來るが大きくなると來なくなるに困る」といふ事は、よく日曜學校關係の人々から耳にする所であり、自分も亦實際に經驗した所である。これは種々なる原因があるであらうが、大體二つに歸する事と思ふ。即ち一は彼れ等自身の境遇によるもの、二は指導上の不備によるものである。即ち年が長じて來るに従つて、學校に於ては豫修復習の時間が増し、家庭にありては家事の手傳等彼れ等相應の用事が増して來る。特に小學校卒業頃即ち青年處女部に編入さるべき時期に至れば、家庭的にも社會的にも種々なる關係が一層複雑になつて來る。この境遇上の變換がその一原因となる事は争はれぬ事である。次ぎは、指導上の不備であつて、換言すれば、彼れ等の氣分と合はぬといふことである。これは少年部に於ける場合と同様であるが、青年部にありては、彼れ等の自己批判に伴う

總てに對する批判力の増加と、社會的關係の擴張とにより、一層この傾を甚しからしめる。けれども、彼れ等は本能的に團體を形成する事を好むものであるから、その指導法よろしきを得るときは決して困難なるものでなく、返つて團體的訓練を施すには最も適してゐるのである。

今左に青年處女部の指導法についての要件を二三述べて見やう。

#### 一、俱樂部的より漸次精神的組織的にすること。

最初から餘りに規則的にし、理論的に亘るときは、彼れ等は第一に「堅苦しい窮屈な集り」といふ印象を持ち、會に出席することを好まなくなる。依つて、最初は、規則内規等により餘りに拘束せず、佛前勤行、教話の如きも、平易簡潔を旨とし、これが爲めに會そのものまでも嫌惡するが如き事のないやうに努め、半ば俱樂部的組織となし、次回の來るのを楽しんで待ち、會には喜んで出席するやうに導くことが必要である。而して、彼れ等の理智が進み、會に對する理解、親

しみ等が生ずるに従つて、或は内規を設け、會則を作り、或は所定の課業研究の實行をなすべきである。尤も、一定の時期に達し、或る所まで導けば、彼れ等は自ら進んで、宗教的には佛典の講義なり研究なりを課せられんことを望み、或は社會的の事業等を行はんと欲するに至るものである。而してこの覺醒の状態は指導法如何によりて多少速進せしめることができる。これは指導者の熱心と努力如何に存するものである。

二、個人的より團體的に及ぼす事。

これは前者と相ひ俟ちて必要な事であつて、最初から團體的精神を要求し、會としての團結を望んでも、これは困難である。これ彼れ等は會員といふも未だ會に參集せる一定の群集に過ぎぬからである。依つて、最初は先づ指導者自身に結び付け、個人的に親密となり、個人的教化を主として、その中に團體的精神を吹き込むのである。かく指導者を中心とせる個人的親愛の念は、聽て會そのものに

對する親愛の念となり、此處に會を中心とせる團體的精神が生ずるやうになるのである。この時期に於て會則會歌等が作られるやうになり、彼れ等自身からして俱樂部的方法には不満を感じ、組織的精神的の運動を要求するに至るのである。この個人的より團體的に導くまでに於て、指導者の忘るべからざる事は、彼れ等をして常に日曜學校と連絡結合せしむることである。即ち平生の日曜日には成るべく毎日日曜學校に出席し、記録、カードの配附等、事務の手傳、兒童の世話等をなさしむるやうにとすべきである。若しこの事が全部に對して不可能であるとすれば、大會、その他の年中行事、特別日等には必ず案内して出席せしめ、男子には受附を、女子には接待をといふ如くその日の役割を配與すべきである。これ等は、愛校心を増さしめ延びて彼れ等の團體心を鞏固ならしむる唯一の機會であり方法であり楔子である。

三、指導者は宜しく自己を開放せよ。

團體的訓練を施さんとするには、先づ個人的接觸による個人的感化を基とせなければならぬが、これには、指導者は宜しく自己を解放せなければならぬ。彼れ等がその指導者に對し、自分の我儘なり秘密なりを遠慮なく打ち明けて話すまでに、指導者は打ち解けることが必要である。依つて嚴肅なる教話を試むると共に、又場合によりては、或は食卓を共にして牛飲馬食し、或は火鉢を圍みて世間話に花を咲かせる等の事を必要とする。特に地方に於ける青年處女の指導の任に當る場合は一層然りである。彼れ等は今まで先生と呼んでゐたものを、十五、六歳になると唯々さんと呼びたがり否、事實呼ぶものである。この際指導者はこれを生意氣だ失禮者だとして癪にさわるやうではいけない。當方でも矢張り唯々さんとして交つてやらなければならぬ。かくする事によつて教師の威嚴を損はせぬかと懸念する事は無用である。眞の徹底せる教育なり感化なりはかくの如き間に行はれるものである。吾人は、かくあるべし、かくあらねばならぬと教へ語る

よりも、現在吾々はかくあるのだ、共にこの道を眞直に進んではいないか、實行しやうではないかと、實踐躬行、身を以て導くことが必要である。此處に眞の共鳴と感激が湧くのである。而して、若し内心に與ふべき何物かを有して居つたなら、囊中の錐の如く必ず現はれ、彼れ等に何等かの影響を與へずにはゐない。要は指導者の人格如何修養如何に存する。而して、彼れ等は或る時期を經過すると又再び先生と呼ぶやうになる。この時には初めて、眞の先生たり得た時である。

四、監視の中に自由を與へよ。

青年は元氣横溢潑瀾であるから萬事について進取的である。指導者はこれを無暗に干渉したり抑壓したりしてはならない。成るべく自由を與へ放任するを可とする。けれども、彼れ等は實際上的經驗に乏しく、特に空想的であるから無謀の事に變り易いから、全然放任することは危険である。故に自由を與へつゝ、これと共に他面には絶えずこれを監視し、適當に訓戒指導することを忘れてはならぬ

五、先方の冷熱は敢て問ふことなく、熱誠を以つて終始一貫せよ。最後に、前項の總てを生氣あらしめ力あらしむるものは熱誠である。何事に於ても熱心と誠意とを必要とするも、青年指導に於ては特に然りである。青年は熱し易いが又冷め易きものである。依つて、指導者たるものは、先方の冷熱に關係なく唯々熱誠を以て終始一貫することが必要である。誠は人を動かさずんば止まぬものである。自己が熱誠を捧ぐることは人をして熱心ならしむる所以である。この熱誠を以て終始するには内心に燃ゆる確信的信念を必要とする。

これを要するに、確信的信念の本に熱誠を以つて終始し、漸進的方法を取り、萬歳を期して進むべきである。

### 附録 コドモの大會に就いて



附録 コドモの大會に就いて

▼本編は、最後の「おはなしの仕方」を除いては、嘗て淨土教報紙上に發表したものであるが、この大會といふことは、日曜學校經營とは不即不離の關係にあるものであるから、此處に附録として掲載することにした。

▼本編は、宗教大學兒童研究會の實際的方面たる、おはなしの大會に於て得たる、實際的經驗を基としてのものである。

▼本編を纏めることができたのは、偏へに、岸邊福雄先生、久留島武彦先生、巖谷小波先生等の御指導の賜に外ならず、茲に銘記して謝意を表す。

附録 コドモの大會に就いて

緒言

通常コドモの大會と呼ばれるものには、大體二つの形式があると思ふ。即ち、一は主體たる講師(教師)が、客體たる兒童に對し講話をするといふ。所謂おはなしの大會で、他は教師は間接的地位に立ち、兒童をして對話、唱歌等をなさしむる、所謂、學藝大會ともいふべきものである。

勿論、この區分は大體上の事にて、事實上にありては、おはなしの大會に、兒童の對話を挿入し、學藝大會に教師のお伽噺を入れて行はれる事も少くはない。寧ろ自分は、こゝにいふ方法をよいと思ふてゐるが、今は、その主とする所に從つて以上の二に大別する。

初録 コドモの大会に就いて

おはなしの大会は、普通、特別の生徒とか、會員とかを定めずに、小學校、公會堂、劇場などにて、一般的、公開的に開かれる。學藝大會といふ形式は、日曜學校、少年會等の固定せる特別の會員又は生徒を有するものが、創立記念日とか花まつりとかの祝賀の意味に於て、若しくは、年中行事として行はれるのが常である。而して、各々その目的とする處を異にしてゐる。  
先づ學藝大會より述べる事とする。

### A 學藝大會（校内大會又は祝賀會）

#### 一 執行の順序

前にも述べた様に、この大會は、通常春秋二季といふ具合に適當の時期に於て年中行事としてか、又は、花まつり、創立記念日等の際に、これが祝賀の意味に

於て行はれるのであるから、兒童のおはなし、對話その他の餘興が行はれる前に慶讃式なり、祝賀式なり、或る一定の儀式が行はれるのが常である。宗教大學日曜學校では、年中行事として、四月早々、春の大會を催し、校友推薦式を行ひ、兼て、一學年間成績の優良なるものに賞與を授與する。今參考の爲めに、左にそのプログラムを掲げやう。

- 一、月影二唱 一 同
- 一、開會の辭 司 會 者
- 一、學務報告 主 任
- 一、賞品授與
- 一、校友推薦
- 一、訓 話 校 長
- 一、答 辭 生徒並に校友
- 一、祝 辭 來 賓
- 一、校歌合唱 一 同

若し、宗祖御忌會、花まつりといふ場合であつたなら、簡単な勤行を行ふべき

A 學藝大會（校内大會又は祝賀會）

附録 コドモの大会に就いて

である。唯注意すべきは、儀式は長くならぬ様にすることである。餘り長く式を行ふて、途中で小供が騒ぎだし、式場が亂れる様なことがあつてはならない。儀式は「嚴肅にして而も簡單」にすることが大切である。

次に、この式がすんだなら暫時休憩の後、兒童の對話、唱歌、その他の餘興を行ひ、最後には、讃佛歌又は萬歳でも唱へて閉會とするのである。兒童の對話、唱歌等をなさしむるときは、その配列に注意する事が大切である。

例せば、男子ばかり続けざまに出して、女子を出さなかつたり、又、内容上からは、おはなしならおはなしばかり續けて、次に、對話を又つゞけ様に並べたりするのは一寸した事ではあるが、興味が非常に減ずる。故に、男子を最初に出したら次ぎは女子、おはなしの次ぎは、唱歌を入れ、次に、對話をさせるといふ具合に、その配列に十分に注意する事が肝要である。

## 二 兒童に對話活人畫等をなさしむるの可否

大會に、兒童を出演をせしむるに當り、父兄によりては、自分の子供は俳優にするのではないから、對話等をやらして貰ふては困るといふやうな人もないではない。依つて、少くとも、その當事者たる私共は、これ等に對し、果して、兒童に對話等をなさしむる事が理論上、又、事實上善いか悪いかといふ事は一應考察する必要がある。今その可否に就いて一寸書いて見よう。然し、これを可なりとする事は、一般識者の認むる處である。

米のプランボ博士は、その著「現代の教育的運動」に假裝行列及び素人演劇の長所として左の四項を擧げてゐる。

- 一、假裝行列及び素人演劇は、高尚なる娛樂を提供す。
- 二、創作と動作とを激勵し、従つて從來學校に於て閑却せられたる創作的衝動

A 學藝大會(校内大會又は祝賀會)

及び、演劇的衝動に對して、満足を與ふ——洵に、學校は主として再現的記憶及び、批評的推理にのみ重きを置きて、興味と十分の効果とを伴ふ演劇的本能の表現を等閑に附したり。

三、人生を活寫し、日常の教訓を含むを以つて、娛樂の中に極めて多量の教訓的要素を吞む。

四、思ひ設けざる演劇上の適材を發見する事往々あり。

これを要するに、感情の養成には、趣味の養成といふ事必要にて、これには、藝術觀賞の機會を與ふべきである。而して劇は音學とも結び、國語も關係し、圖畫、體操とも結び來りて、彼れ等が、他學科で學びたる事を綜合して、これを創作的に發表せしむるからして、藝術觀賞の力を養はしむるは勿論、兼て、歴史傳説に對する趣味をも喚起する事が出来る。故に訓練上より見ても非常に有效である。且つ、實際上よりしては、これは、心理的に、彼れ等の演劇的本能を満

足さするを以て、非常にこれをなす事を喜ぶ。従つて、日曜學校及び教師との親密を増さしむる事ができる。且つ、唱歌を入れ、内容に注意する事により、大會の印象を深からしむる事ができる。

### 三 對話をなさしむるに就きての注意

上述の如く、對話をなさしむる事は、その効大なるものもあるも、これを教ふるに際し、周到の用意を缺くときは、種々なる弊害を伴ふものである。先づ第一に餘りに演劇をなさしむる時は、彼等の虛榮心を高め、小俳優氣取りたらしむる事。第二は、彼れ等が、これを練習するに餘りに熱心なる爲めに、又、興味をこれに集中するの餘り、學業並に家事を等閑にする虞れある事。第三は、實際に當りてその役割入選をなすに當りて、教師に於て、その方法よろしきを得ざる時は、兒童間の平和を害し、秩序を亂すやうな事あること。

然れども、これ等の事柄は、その出演者の指導の任に當る教師の注意如何によりて除く事ができる。

それで児童を出演せしめんとする場合には、その父兄に對し一應了解を求め、豫めその承諾を得るの必要がある。そうして、練習の時間等をも、豫め家庭に通知すべきである。

次に人選の方法であるが、これには、當方より指名してなましむるものと、各自の自由意志に任せ、希望者をして申出さしむるものと二様の形式がある。前者は、この方面に才能の長じてゐる適任者を選らび得るといふ長所はあるが、一般的でないといふ失がある。後者は、一般的、自發的であるといふ長所があるが、これは希望者を得る事が困難を感ずるか、又は、多すぎて、番組の編成上困るといふ様な失がある。

然らば、大会をなす場合、二者何れを取るべきかといふに、若し聯合大會とい

ふが如き場合に、自分の日曜學校、又は會の代表として選出するが如き場合には、前者の方法を取る事が適當であらうが、若し、校内の祝賀及び慶讚の意味に於ての大會であつたなら、後者の方法を取るべきである。而して、同一大會にありて或る児童は、對話に、おはなしに唱歌に何回も出演するに反し、或る児童は、一回も出演しないといふが如き事は、氣を付くべき事である。

次に役割を定むるに當りては、その指導者は公平といふ事——これは教師の常に持すべき態度ではあるが——が大切である。その児童の家庭や、容貌、態度等によりて、その役割を定むるといふ事は、避けなければならない。児童は征伏的本能により、召使や下女になる事を嫌ひ、主人公、お嬢様になる事を欲するものである。それで、指導者は「役割といふやうな事は、唯一時の約束上の事であるから、問題とすべきではなく、唯々各自が熱心に自分のなすべき事を熱心に練習し、これを行うことが大切で、この各が眞面目に一生懸命にやれば、その對話全體

がよくできるのである」といふ具合に彼れ等に、その職務に忠實なる事が尊き事、及び共同責任といふ觀念等を與へ、公平に處理するといふ事が大切である。

次には、練習をなさしむる時間であるが、これは出演児童及びその指導者が、その對話をうまくやらうといふ熱心から、放課後から晩遅くまで、二週間も三週間も乃至は一ヶ月間もこれが爲めに、練習して時間を費すといふやうな事もあり勝ちであるが、こゝにいふ事は氣を附くべき事である。こゝにいふ事になると、前述の如き弊に陥る。依つて、その指導者は、演劇そのものを上手になさしめんと努むるよりは、児童をして、假令、その演じ方は下手であつても、眞剣に、且つ、喜びてこれをなすやうに導く事が必要である。

次に、大會をなすに當りての準備及び當日の司會の仕方を論ずべきであるがこれは次におはなしの大會の章下で詳述する事とし、今はこれにて擱筆する。

## B おはなしの大會

おはなしの大會は、近來頗る盛に行はれ、或は少年少女の雜誌記者により、或は、小學校の教師の手により、或は、児童に興味を有する諸種の階級の人により頻々催さるゝやうになつた。而して、これに對する研究も大分行はれてゐる。

おはなしの大會は、一面群集心理の奇現象を捉へて、廣義の感情教育、児童の社會教育を施さうとする量の大會——前述の學藝大會などはこれに對し質の大會と見らるゝ——と見る事ができる。依つてこの會は、何百何千といふ數多の児童が集るのを常とする。それで、この活動性に富む數多の児童を、長時間、靜肅を保たしめ、整理して行くことは容易なことではない。會の途中で、騒ぎ出したり、立ち出したり、會場が何とも致し方なきまでに亂れて了ふやうな事も往々にして見受ける。而してこの原因を察するに、講師の講話の拙劣といふことは、そ

の主因を爲す事は勿論であるが、單にこれは講師にのみその罪を歸せしむる事は出来ない。主催者側にしてもその半分は當然責を負ふべきである。即ち、設備の如何、司會の具合等により或程度までは立派に會を進行せしむる事が出来る。設備が十分行き届き、司會その方法よろしきを得るときは、講師の講話が少々拙くとも、児童をして相常その話を聞かしむる事ができる。

おはなしの大會を立派になし遂ぐるには、準備と、司會と、講話との三拍子が揃ふことが大切である。依つて以下、一、大會の準備。二、司會の仕方。三、おはなしの仕方の三項に分ちて述べて見たいと思ふ。

### 一 大會の準備

相談會 大會を開催せんと思はゞ、先づ第一に、關係者が寄つて、相談會を開かねばならない。而して、その日時は何日の何時からにするか、程度は何年位

とするか、司會は誰れにするか、講師は誰れにするか等を議決するのである。

開催の日は、相談後少くとも、二週間位の餘裕を持つやうにするがよい。準備が不十分なれば失敗を招き易く、而して、日時の餘裕がないと、準備が粗漏に陥り易いからである。

次に児童は各々その知識能力の程度を異にしてゐるからして、おはなしの大會にありても、その程度を定むるの必要がある。いくら童話といふても、尋常の一年生より高等科までの生徒に對し、一樣に同一の話で徹底を期する事は望み得られない。少くとも、尋常三年以下、四年以上位には分ける必要がある。

司會者は、大會當日にありては、開會、閉會、講師の紹介、並に児童の管理等會全體の事を司るべき最も重大なる責任者である。司會の方法如何によりて、その會の成功不成功は定る程のものであるから、その衝に當る人は、児童をよく了解し且つ恩威並に行はれる人でなければならぬ。若し、日曜學校又は、少年會

などが、主催となりて開く催などにあつては、その主任がその衝に當る事が最も適當であらう。

**プログラムの編成** 大会を開く事が決定したならば、先づ司會者は、講師の交渉をなし、——講師の交渉をする場合には、會の性質、來會兒童の程度等を通知することを忘れてはならぬ。——若し兒童を出演せしむるならばこの交渉をもして、プログラムを編成し、活版で印刷するか、謄寫版で刷らねばならぬ。

プログラムは如何に作るか、これ研究を要する問題である。勿論作り方として別に一定した型があるわけではない。司會者の随意に、その會の性質によりて然るべき様作るべきである。プログラムの要件としては、簡單、明瞭、平易、而もこの中に變化があり、全體としては一寸見て、感じが善いことが必要である。何時、何處で開くか、そして、その内容はどうか、次に注意すべき事項は何かといふことを明示しなければならぬ。そして、兒童に読み易からしめんが爲めに、振假名

を附する必要がある。但し高學年の際は不必要である。

次に印刷に用ふる紙であるが、これは、白い紙よりも、赤又は青の色紙を用ふるがよい。これ兒童が先天的に好み、従つて、注意を惹き易いからである。今宗教大學の大会の際のプログラムを參考の爲めに、その一を掲げて見やう。

### ◎第九回少年少女大會 (四年以上)

▲この二日(日曜)午後一時から

▲巢鴨宗教大學講堂で

主催 宗教大學兒童研究會

### プログラム

司會者 岩佐英昭先生



附録 コドモの大会に就いて

- 一、おはなし 鵜飼俊成先生
- 一、お伽ばなし 鈴木積善先生
- 一、繪ばなし 林隆信先生
- 一、おはなし 巖谷小波先生
- 一、なつかしの母(對話) 宗教大學日曜學校生徒

注意!!

- 一、雨が降つても開きます
- 一、上草履をお持ち下さい
- 一、四時におしまひ
- 一、満員の時はお断り

右プログラム中、注意事項は、天氣に関する事は必ず明示して置かねばならな

い。次に閉會の時間であるが、これは、午前中の會であるならば特に必要である。子供は、直ぐお辨當を持つて行くのですかと聞く。それで「正午までにはおしまひ」といふ事を明示して置く必要がある。又、この閉會の時間を明にして置く事は父兄に對してもよい。満員に就いての断りは、餘り來過ぎてどうしても断らねばならぬといふ、確たる見込がない時には、返つて書かない方がよい。然し、もしさういふ見込がたつた時は、「何だ人にプログラムをくれて、入れてくれぬとは不都合だ」といふ様な不平を豫め防ぐ爲めに、この事を入れて置く必要がある。この外、その時と處に應じて、隨時注意事項を入れるべきである。例せば、「御父兄の方も歓迎致します」「食へ物は一切持つて來ない事」等である。

若し、尋常三年以下の場合であつたなら、これに振假名を附けるか、又は、片假名のみで書くことがよいと思ふ。

案内状の發送 プログラムが愈々出來上つたならば、案内状を添へて、然る

B おはなしの大会

べき處に案内狀を發送するのである。案内狀の發送は一般的には餘り差し迫つてからよりも、寧ろ、早さを可とするも、小學校に兒童にその配布を依頼する事と新聞社に廣告(明日の注意欄に)を依頼する場合は、早過ぎてはいけない。小學校であつたなら、若し日曜に開く會であつたなら木曜日か金曜日か、最も適當である。餘り早いと、教師の方で忘れたり、兒童の方で誤解したり、又、行かうといふ希望を減退せしめたりする虞れがある。新聞社に於ても同様である。

**會場の作り方** 上述せる所によりて第一次的の準備は略々終へて、愈々本論に近づいて來て、會場の問題に到達した。會場として、特別に出來てある處を除きては、會場は、大會の前日には作らねばならない。當日になりて周章狼狽する様な事があつてはならぬ。

兒童の集會の場所は總て、陽氣で氣持ちよい感じが起る様にする事と、衛生上より空氣の流通を善くするといふ事が大切である。それで、萬國旗を四方に吊り

モトルで出入口を裝飾し、紅白の幕で會場を賑はすといふ位の簡單の裝飾を施す事は至極よい。

次に、演壇は、成るべく廣く悠々と作ることがよい。演壇が大きく、ドッシリとして居ると、講師が偉大に見え威嚴がつくのである。高さは、低きに失するよりは、寧ろ高い位が大體に於てよい。聴衆の胸の高さを限度としたい。然れども、會場の廣狹、人員(聴衆)の集合の具合により、その高さ、廣さも、これに釣り合ふ様にすべきは勿論である。

次に、着席する場所であるが、前が低く、後方が高くなる様なれば理想的である。椅子を用ふるよりは、座せしむる方が兒童を纏める上によい。而して、前後左右は、十分に餘裕をつけて空けて置くがよい。特に注意すべきは、壇の下、即ち前列と壇との間隔の具合である。これは、壇と着席との間隔が近すぎても、遠すぎても、非常に話しにくい。依つて、十分注意して、その邊の具合を見ねばな

らぬ。唯々壇が高ければ高き程、着席の位置は、壇との隔りを多くする事を記憶すべきである。壇の直ぐ下に居る児童が、仰向きして、講師の顔を見上げる様ではいけない。

次に椅子を並べるには、壇を中心として扇子形にするがよい。次に、男子と女子、大人(來賓及び父兄)と子供との席は區別して設けることが必要である。児童の中に大人が散在して居られると整理上非常に困る。而して、児童の席を壇の正面真中に取り、來賓、父兄席を兩側及び後方の空いてる所に設けるがよい。

因みに、入口、便所、控室、プログラム(當日めくる)等のピラをも、前日に書いて置いた方がよい。而して「來賓席」等のものを除きたる、児童に讀ましむる必要あるものは、彼等に讀み易からしめんが爲めに平易に、假名で書いた方がよい。

**當日の役割と執行の豫定時間** 以上述べた處によつて、準備は大體に於て整ふた。早や當日を待つのみとなつたが、これ等の諸設備を生かし、當日の大會を

圓滑に進行せしむるには、猶ほ、當日の執行の豫定時間と、各々その役割を定めて置く必要がある。而して、當日に至らば、その所定の時間に依り、各々の役割に従ひ、その掌る部署は各々異ると雖も、會全體として連絡あり、統一あるやうにして置くのである。これが出來て、初めて大會が完全に行はれるのである。

豫定の時間は、司會者これを定め、當日の掛り員(各役割)全部の人々に、知らして置く必要がある。即ち、児童の入场、開會の時間、閉會の時間、批評會の時間等を豫め定めるのである。閉會、批評會の時間などは、來賓の人々にも知らして置く方が便利であるから、表にでも作つて、これを一般に廣告して置く事がよいと思ふ。

次に、役割であるが、これは、司會者が選定して、各個人に依頼しても、又、互に寄りあつて、これを定めても、どちらでもよいであらうが、役割の種類は、司會の外に、進行掛、受附係、接待係、児童係といふものが必要である。進行掛

は司會者の秘書役の如きもので、司會者を助けて、會の進行を圓滑にする役で、特に、兒童の對話を挿入する場合、又は、學藝大會の場合には、必要である。司會者は場内及場外の諸係員と、常に連絡を取つて行く必要がある。この司會者と諸係員との間の連絡を掌る連絡係といふものは是非必要である。而して、これは、この進行係が兼任する事が一番便利である。接待係は、更に、これを、講師、新聞記者、父兄及び來賓、及び出演兒童といふ風に分擔することがよい。若し、日曜學校等が主催の大會で、校友(日校出身兒童)があるならば、その女子部を各部に二三人づゝを配當することが頗るよい。

次に、受附は、來賓父兄等を比較的よく知つてゐる人がその任に當るがよい。而して、來賓等の案内人として、此處にも、校友を二三人手傳はせるがよい。兒童係は、更に、昇降口(入口)、廊下(入口より會場まで、距離があり、廊下のある場合)、講堂(會場)といふ具合に、分ける事が必要である。

上述せる如く、大會がうまく行くか行かぬかは、主として、司會者の如何、次に講師の如何といふ事にあるが、この外に、些細な注意が到る處、あらゆる人によつて行はれ、而も、これが自ら、連絡統一ある一個體として、その作用が現はるゝ時に、會全體が、理想的に進行せしむる事ができるといふ事を忘れてはならない。この意味に於て、この役割を確乎と定め置き、各自そのベストを盡しその部署の責任を完ふする事が大切である。

#### 豫備實演と批評會

最後に講師に當つた人は、如何なる準備をなすべきかを一言すべきである。詳しい事は、おはなしの仕方の題下で述べる事とし、唯此處では、日曜學校等の職員の二三が、その選に當りたる場合、即ち、内輪から講師として出る場合に就て述べる事とする。内輪同志で話に出るとすればその選に當つた人々は、臨時に何時でも寄り合ふ機會、便宜を有して居るのであるから、講師の任に當つた人々は、前以つて、互に、その内容を話し合ひ、一人が興味中心

の話をするれば、一人は教訓的のもの、他の一人は、この兩者を折衷せるものとか  
 或は一人がお伽噺をするならば、一人は事實談若しくは、これに近き話をする  
 いふ具合にし、話材を豫め相談して定めるがよい。而して、愈々その話が纏つた  
 なら、お互同志並に然るべき人の出席を請うて、豫備演説をし、互に批評し合ふ  
 て、精練して出演する事が必要である。

因に此處で述べなければならぬ事は、大會が済んでから、來賓の出席も請うて  
 批評會を開く事である。これは勿論準備の中に入るべきではないが、準備の必要  
 と表裏の關係あれば此處に述べる事とする。この批評會は、お世辭などは抜きに  
 して、忌憚なく批評をし合ふ事が必要である。これは、吾人の研究を進め、斯道  
 の堅實なる進歩發展を期する上に極めて必要なる事である。

然し、この陥り易き弊としては、お世辭並べの會として、研究的態度を缺き易  
 き事と、然らざれば互ひに、惡口の云ひ合ひといふ人身攻撃に陥り易き事である。

この惡口の云ひ合ひといふ様な事は、これ畢竟、單なる批評に止めず、自分の所  
 説を通さんとする自我心及び、他の説を容るゝ能はざる不寛容の精神によるもの  
 である。これは、要するに、その根本を忘れたる結果に外ならない。少くとも、  
 吾人は、常に研究的態度を持ち、斯道の向上發展の爲めといふ第一義に立ち、批  
 評の爲めの批評に陥らざる様にし、眞剣に進むべきである。

## 二 司會の仕方

**司會者の任務** おはなしの大會には、大體二つの要素が要る。即ち、その目的  
 の對象たる兒童と、これに講話をなす所謂講師とである。然し、これのみにては  
 大會は圓滑に行はれない。どうしてもこの兩者の中間の位置に立つて、而も、會  
 全體を司るべき役目が要る。これ即ち、司會者なるものである。司會者の任務と  
 しては、これを狭義に見る時は、開會、閉會、講師の紹介及び、兒童の管理等、會

場内の總てを司るものであるが、これを廣義に見る時は、單に會場に於けるのみならず、少くとも、その會全體の事總てを司るべきで、従つて、前述せる大會の準備等の如きも、當然司會者の司るべきものである。

司會者は、かくの如く、會を行ふに當り最も重き任務を有してゐる。大會の立派に行くか行かぬかは、會に關係せるもの、共同責任である事は前に述べたが、就中、司會の仕方如何によりて、或程度までその會の成功不成功が定まる。否、その大半の責任は、司會者が背負うべきであらう。故に、司會者たるものは、十分なる準備をなし、用意周到なると共に、當日にありては、頭腦を明晰にし、泰然自若たる事が必要である。それで、大會の前日には、入浴でもして、身心を清潔爽快ならしめ、ゆつくりと休養して置くがよい。

**司會者の準備品** 當日にありて、司會者は、ビリ／＼(呼笛)、手帖、仁丹等の清涼劑等は、是非用意して、これを持參せねばならない。呼笛は、兒童がガヤ／＼

騒いでゐる場合に、これを制止し、注意を集中させる爲めに用ふるもので、司會者唯一の武器であるから、これは、是非忘れてはならない。或る人は、これを護身用のピストルだといふてゐるが、成る程さうである。次に手帖は、何か注意事項を記したり、又は、用事があるとき、この要件を記して、連絡係にこれを示したり——講話中に、會場で司會者が話をしたり、耳うちなどするは禁物である——するに必要である。次に、仁丹等は、自分の氣を爽快ならしむる爲めと、又一萬一兒童に不快なるものなど起りたる場合に備へて置くのである。

因みに、この藥の問題と關連して一言すべきは、千人以上もの集合には、出來得べくんば、醫師を頼んで置くことが必要である。醫師が都合出來ざれば、少くとも、看護婦を一二名招いで、萬一の場合に備へて置くべきである。特に、夏期にありては是非とも必要である。

**入場前の注意**

兒童は、大抵、定刻前一時間も二時間も先きに、押しかけて

来るものである。児童は、入場の瞬間、否、會場のグラウンドに足を踏み入れた時の瞬間の気分は、入場後まで、その精神を支配する。それで、これ等早くより来る児童を如何に處理すべきかといふ事は、先づ一考すべき問題である。

それで、この早くから来た児童を順次に入場せしむべきか否かといふ事である。若し、これを入場せしむるときは、彼等は、會場内に一時間以上もある時はもう開會までに、此處にある事が飽きて了ひ、肝心な會が初れば直ちにダレて了ふ。依つて、一時間も前から入場せしむる事はいけない事となる。此處に於て、前述せる如く、昇降口の係員なるものがある。この掛りは、これ等の児童をして入場せしめざる様注意し、併せて戶外にある彼等を監督注意してやるのである。然し、大會で、多忙の時に當り、特に手不足の場合にありては、一時間も二時間も前から、入口に番をして居る事は不可能の事であるから、これが簡便法としては、児童の未だ來ざる中に、その出入口(昇降口)を閉し、其處に「時間のくるま

では、お待ち下さい」といふピラを貼布して置く事がよい。

**児童講師及來賓の入場** 先づ児童を入場せしむる時間であるが、これは來會者の多寡によりて差異はあるも、開會前三十分より早くてはいけない。前述せる如く、餘り早く入場せしむると、開會までに、彼等は飽きて了ふ。通常は十分か十五分前に入場せしむれば十分である。勿論これは、來會者の多寡といふのみならず、昇降口の出来具合、入口と會場との距離の關係等をも顧慮せねばならない。兎に角、開會宣言までに、全部が入場し得る丈けの時間を取つて置けばよい。

この入場せしむる際に、注意すべきは、この入場を報ずる爲めに鐘を打ち、若しくは、鈴を鳴らす事である。これは、五十名乃至百名位の少數の場合であれば方々に散在してゐる児童を纏める點に好都合であるが、千人を超過する様な澤山の集りの際は、この合圖をみると、一度に入口に押し寄せてくると、非常な混雑を醸し、どうする事も出来なくなる。又頗る危険でもある。それであるから、これ

は入口掛のものは、兼て司會者と打ち合せて置いた時間か来たならば、漸次に少しづつ、入場せしむるのである。而して全部が入場し終つた時分に至りて、開會の用意の合圖に鐘又は鈴を鳴らすのである。

猶ほ、非常に、來會兒童が多くて、混雜する様な場合には、その出入口は男女を各々別に設くるがよい。そうすると整理上も大分具合がよい。

次に、出入口(昇降口)より会場までの距離が、大分ある様な場合には、兒童は少しでも早く会場に入らうとして、その廊下をドン／＼走り出すものである。それで、これを制止するに當り、教師が途中で立つてゐて「静にお歩きなさい」と大聲に叫んだ所で仲々耳に入るものでない。依つて、その廊下の曲り角とか、又は途中の目に付き易い所に「シヅカニ」と明記した注意を貼付して置き、教師はその近くに、佇立してゐて、もし、走つてくる子があつたら、無言でその頭を軽く押へ、その注意書を指示して讀ましむれば、兒童は一種の暗示にかゝつた様になり

走る事を止める。勿論、この方法と雖も、全體が走り出した様な場合には、もう何んとも致し方もないが、前からよく準備を整へて置き、最初の二三人の者をこの法で暗示を與へ、その走る事を制する事ができれば、後は、全部續いて、具合よく行くものである。

兒童が全部入場し終り、開會の用意の合圖の鐘、又は、鈴が鳴つたら、接待係は、講師、來賓、父兄等を會場に案内するのである。

**開會宣言と唱歌合唱**　かくして、兒童並に、來賓等が全部入場して、席が略々定つたならば、司會者は、ピリ／＼と呼笛を吹て、兒童の注意を自分の方に集中せしめ、然る後に、ニコヤカに而も悠然と登壇し、簡単に開會を宣し、オルガンの合圖で一同を起立せしめ、君ヶ代なり何なり合唱せしむるのである。

この開會の宣言は極めて簡單がよい。

「皆さんよく早々と澤山来て下さいました。お待兼ねの大会は、これから初めま



附録 コドモの大会に就いて

す。開會の辭)おはなしの前に、一所に謹んで君ヶ代を唱へませう。オルガンの合圖で、靜に、立つて下れ』

これで十分である。開會の辭の長いのは、會を亂す本である。兒童は、早くお話を聞きたくて、待ち構へてゐる所に、長い面白くもない事をくどくどしくいはれると、期待心を削がれ、満足心を害はれて、失望して了ふからである。

次に、最初に唱歌を合唱せしむる事は、千差萬別に向つてゐる兒童の心を、この唱歌によりて、統一して、一と纏とするに非常に効果がある。最初に合唱せしむるのは、全部のものゝ心を統一し、これを靜めるのがその主なる目的であるから、その唱歌は、これといふて定つてゐるわけではない。何でもよいのであるが、然し種々雑多の心を統一する爲には、その唱ふ唱歌は、その全體のものが、知つて居つて、總てが共に唱へ得るものでなくてはならぬ。この意味に於て、君ヶ代は最もよい。君ヶ代は、誰でもこれを知つてゐるのみならず、その譜が、誠に莊重

で心を沈むるに適し、猶ほ、國歌であるから、大會の最初に歌ふのには、最も相應してゐる。故に先づこの最初の合唱には君ヶ代を用ふる事が最もよいであらう。又、事實これが用ひられてゐるやうである。

次にピリ／＼の吹き方であるが、これは、最初注意を集むる場合にはピリ／＼／＼と、長く續けて吹くのもよいが、原則としては、ピリ! と短く力強く吹いた方がよいやうである。これ、このピリ／＼は體操の時の「氣を附け」若しくは「用意」の號令に比すべきものであるから簡單明瞭といふ事が必要な道理である。然しながら、このピリ／＼は若し用ひずすむならば、成るべく使用せざるを可とする。

講師の紹介と管理上の注意 唱歌がすんで着席したならば、愈々講話に入るのであるが、これに先ち、講師の紹介の際に、忘れてならぬ事は、會場管理に就いての注意事項を兒童に徹底する様に話す事である。此處でこの注意を話す事

は、児童は、話を聞かうとして、静肅にして待つてゐるときであるから、その虚に乗じて話すのである。それで、この時の注意が徹底し、よく行はるゝか否かによつてその會場の整理は大體定まるのである。その注意事項は、會場の都合、地方の習慣等によつて然るべき様なすべきであるが、大體に於て何處にも通用し得る一例を掲ぐるならば、

『今度は誰先生のお話ですが、お話の前に皆さんと、お約束をする事が御座います。それは二つで、一つは、お話中に勝手に出たり入つたりしない事、二は氣分が悪くなつた方、用事(はかり等)のある方はそうと手をあげて胸に赤い徽章をつけてる先生(児童係)にあつげ下さい』

といふ具合である。猶ほ夏期等にありてはお話中は扇子を使ふ事を遠慮する事等を注意する事も必要である。

この第一の注意は、入口が後方にある會場には左程でもないが、これが兩側特に演壇の横側にある様な場合には、講演中、其處を出入すると、児童(聴衆)の視線がその入口の方に取られ易い、従つて、講演は非常にし悪くなる。依つて、講演を聞いてる際に、勝手に立つたり、出たりする事は、講師に對して失禮である事を教ふる上からも、又、講師の話に注意を集中せしめる上、即ち會場整理の上からも、この注意は頗る必要である。然しながら事實上、その講話が相當に面白ければ、場内に既にあるものは、猥りに、立つたり出たりする心配は殆どないが、唯々問題となるは、後から遅れて來たものである。それで、この遅れて來たものに對しては、會場の入口に、その掛員が居つて「お話中は、待つてゐて、此處で我慢して聽いてゐて下さい。このお話がすんだなら入れてあげますから」と訓して待たして置くのである。而して、こゝで問題となるのは、父兄來賓が見えた時は如何にすべきかといふことである。大抵は、來賓等の大人が來れば入れて了ふ。然し、これはいけないと思ふ。何故ならば、児童には、入る事を禁止して置き、

大人には許して、入場せしむるといふ事は不合理である。観察の鋭き児童は「大人が入つてよいのなら、僕等も入つてもよいだらう」といふに相違ない。故に假令大人であらうとも、その旨を話して、待つて居て貰ふことが、失禮に似て、而も、児童そのもの、事業そのものに對して忠實なる方法である。児童の事を眞に考へ、この種の事業をよく了解してゐる人であつたなら、この待たされた事によつて、その熱心と用意周到とに感じて寧ろ喜ぶであらう。それで澤山にやつて來る人を一々斷る事は煩雜でもあり、氣の毒でもあるから、この事を一見明瞭ならしむる爲めに、

「お話中は、お待ち下さる」と紙に書いて、會場の入口にこれを貼付して置く事がよいと思ふ。

**中途の休憩と心機の轉換** お話をつゞけ様にしてゐると児童は飽きてダレて來る。それでこれを防ぐ爲めと、便所等に行く時間を與ふる爲に、途中で適宜に

休憩の時間を設けねばならない。而して、この間に窓を全部開けて、新鮮な空氣を入れ換ふるがよい。

司會者はこの間に、児童の疲れ具合や、緊張の具合を見て、その殘餘の部分如何に進行すべきかを策戦計畫せねばならない。又、講師が揃つてゐるかどうか若し外來の講師でもあつて、未だ來て居らぬ場合には、如何にしてその間を塞ぐべきかといふ事を考へねばならぬ。

次に數分間の休憩を終へて、児童を入場せしめたならば、その際餘程整理に注意せねばならない。それでプログラム中に、児童の對話なり、唱歌、若しくは、ハーモニカ又はヴィオリン等の樂器でも挿入する事になつてゐたならば、この休憩後直ちに入れるのが最もよいと思ふ。さうすれば、會場は獨りで整理統一され次の講師が大變に話をするに容易である。又全體の調和の上からも具合がよい。會場にある事が長くなり、或は講話が長きに失した爲に、児童が倦怠、疲勞し

た様な場合には、児童の氣をして轉換せしむる爲に、休憩の外に、隨時に、脊伸びをなさしむるがよい。然し、これをなすには、その方法宜しきを得ざる時は會場を却つて亂して了ふ恐れがあるから、餘程上手にやる必要がある。それで、多數の時は、これは一度に立たしむる時は、どうしても喧噪に陥り易いから、男子と女子とが若し混合席であつたなら、二つに分けて、各々競争心に訴へて、半分づゝ立たしむるがよい。それで男女何れを先きに立たしむるかといふに、女子は性來座作進退は靜にするものであるから、女子を先きに立たしむるがよい様である。先づ一例を示せば、司會者先づ登壇し、

「女子の方だけ音のせぬ様にソウとお立ちなさい」

と(司會者は右手又は雙手を下方より上方に徐ろに舉げ、立つ所の手振りをしつゝ)いふて靜肅に立たしめ「大變に靜でした」と褒め、次に、

「今度は男子の方、サア、女子に負けぬ様に、靜にお立ちなさい」

といふて、男子を立たしむ。かくして、全部が立つたなら、

「兩方の手をソウとあげて」

といふて、司會者自ら雙手を徐々に舉げて、その模範を示し、児童をしてこれに倣はしめ、又同様にして靜に下す。かくする事二三回にして中止し、起立した時と同様の方法にて靜肅に着座せしむ。來會者が少數の場合、又多數であつても、かういふ事によく訓練のついでる所であつたなら、男女同時にこれを行ふことは差間はない。唯、此處に注意すべき事は、この際、深呼吸をなさしむることである。多人數が一室に密集してゐる場合であるから、従つて、空氣は濁つてゐるし、又、塵埃が立つてゐるから、これは單に手や踵をあげる位に止め深呼吸はなさしめなす方がよい。

閉會の辭と兒童の出し方

司會の最も難關とする所は、會の最後である。

話中は相當に具合よく行つてゐた會でも、最後になると、閉會の辭もないうちに

お話がすまぬか、一同が立ち出し、出入口が非常な混雑をするといふのが頗る多い。それで、閉會の辭も逃れることもでき、出し方も、司會者の指示する通り、要領よく出場せしむる事ができれば、それは、會全體としても、又、司會の仕方としても成功せるものである。

此處に於て、最も大切なことは、閉會の辭を簡單にする事と、兒童に對し最後の暗示的注意を與ふることである。而して、この最後の注意は、往々見受くる所によると、閉會の辭を長々述べ、その後「靜に歸らないとだめですよ」といふやうな調子がある。然し、これは大の禁物である。最後の挨拶即ち閉會の辭は、最も簡單を要する。子供は、お話がすまぬ、全部が済んだものと心得てゐる。又事實に於て、兒童は、餘分のものは要求しないのである。故に、特に、この閉會の辭の次に、歸りの注意などを述べた所で、到底兒童の耳に入るべきではない。それであるからして、この注意が、親切丁寧であればあるだけ、兒童は、立ち出

したり、喧ぎ出したりする。かくの如く、注意を與ふるのは最後、特に閉會の辭の次にするのは、何等その効を奏しない。否、寧ろ、注意事項を述べない方がよいといふ結果を生ずるのである。それで、歸る時の注意事項は、必ず、最後の講師のお話の前、即ち、最後の講師の紹介の際これをなすべきである。今例に就きて具體的に述べれば

「このお話で、今日の大会はおしまひになるのですが、今日は大變に、皆さん、靜でお行儀がやう御座いました。けれども物は一番おしまひが大切、一番おしまひまで靜にしてゐなければ、今まで、お行儀がよかつた事がだめになつてしまひます、それですから、このお話がすましても、私の指圖のあるまではジツトして立たないでゐて下さい。サア、おわかりになりましたか？…ア、ア、わかりましたネ、それでは今度はお待ちかねの誰先生のお話を承りませう」といふ具合に、優しく、兒童の自尊心に訴へる様にして注意を與へて置く。そうす

れば兒童は話がすんでも、ジットして立たないでゐる。依つて、司會者は、話がすむと直ぐ敏速に登壇して

『今日の大會はこれであしまへ(閉會の辭)それで、あもしろいお話をして下さつた先生やわざわざお出下さつたお客様方に御挨拶をする爲に皆なで一所に、手バタキしてお送り致しませう』

といふて、司會者自身も拍手をしつゝ、講師來賓の方に向つて軽く會釋をなす。そこで、講師、來賓、父兄は續いて退場する。來賓等が退場し終つたら、至急拍手を中止し

『サア、今度は皆さんの番ですが、これ丈けの人が一度に出ると、混雜して、怪我でもすると危ふございますから、私のいふ通りお立ち下さる……』  
といふ風にして、左右前後と區劃を立て、場内兒童掛に世話をして貰うて漸次に出すのである。

上述の來賓を送る際拍手せしむるといふ方法は、理論上からも實際上からも極めてよい方法である。兒童は一定の遊戯仕事をしてるときは他事を忘るゝものである。依つて拍手をする事に依りて、會がすんだから自分が先きへ出やうといふ氣を拍手に移すのである。又、來賓の方からいふても、満場の兒童から、破るゝが如き拍手を以つて送らるゝ事は實に氣持ちがよい。

**司會者としての要件** 司會者は、前述せる如く、會場の整理進行といふ事が最大な仕事であるが、此處に注意すべきは、威壓的になつてはならぬ事である。司會者は往々にして、威壓して兒童を整理して行かうとする傾向になり易い。然し、これは、大に慎まねばならぬ事である。會場は常に暖い、楽しい氣分が漂つてゐなければならぬ。大聲叱呼して會場を整理せんとしても幾百、幾千といふ多數の兒童が不統一になつた場合には、僅少の効果もない事は勿論である。然し、餘り緩に過ぐる時は、整理がつかなくなつて了ふ。仍て全部を魅する様な愛情が

全身に溢れ出てゐると共に、何處となく、その間に一種侵すべからざる威厳がなくはならぬ。これは平素よりの修養に俟つべきではあるが、司會をなす場合の要件を概括すれば

- 一、細密周到なる準備がなければならない。
- 二、司會者は、身心を爽快ならしめ、兒童が喜びに満てるが如く、自分は愉快でなければならぬ。
- 三、兒童の緊張倦怠の具合に注意し、これに對する應急策をなすに敏捷でなければならぬ。
- 四、司會者は、各役割と常に連絡を保ち、各役割に當れる人は、共同責任、犠牲の精神を以つて、各自その任に努力すべきである。

以上の四要件が圓滑完全に行はれ、司會者によりて統一されたるときに、司會は完全に行はれるものである。

### 三 お話の仕方

お話の仕方に就いては、本論の教授法の章下で大體述べたるを以つて、此處にはそれと低觸しないやうにして、寧ろお話をするに際しての注意を簡単に述べる事とする。

**登壇前の用意** 登壇前の用意といふ中には廣義にこれを見るときは、講話を

依頼されその交渉を受けたときから當日の登壇に至るまで、狹義にありては、大會當日特に登壇の刹那を意味することゝならうが、今は廣義の意味である。

講話の依頼の交渉を受けた時は、必ず會集者の程度及び人員數、及び當日のプログラムの大體を聞いて置かねばならない。尤もこれは司會者の方から當然通知があるべきであるが、どの會合に對してもこれを望むことは出來ないから、當方から積極的に聞く必要がある。如何となれば會集者の程度、及びプログラムによ

つて自分の話すべき材料の選擇を異にせねばならぬからである。これは兒童の  
話會に臨む時のみでなく、大人の講演會に臨む場合も必要なことである。

次に、大會當日にありては、服装に注意せねばならぬ。大凡、講演する場合適  
當の服装をすべきは聴衆に對する禮儀で、一般の場合にも必要なことではあるが、  
兒童の前に立つときは一層この點に注意を拂はねばならない。何となれば、兒童  
は驚歎すべき批評家にして萬事に卓越するものを認むるものであるからである。  
それで、洋服の場合であつたなら、カフス、カラー等は十分注意して汚れざるも  
のを川ふることは勿論であるが、講話中抜け出したりする虞なきやう固着せしめ  
ネクタイは眞直に、ズボンの折目は正しくつけて置くことが必要である。若し、  
ネクタイが横の方に曲つてたり、カフスが抜けそうになつてたりする時は、兒童  
の注意は話よりその方に取られ、加之、講師の權威を失ふ。和服の場合であつた  
なら、袴の折目正しさを着用すべきは勿論であるが、その紐の結で方、羽織の紐

の結び方等は十分注意して、キリット固く結んで置くべきである。

次に、當日、會場へは自分の登壇前二三十分前に行くことが必要である。それ  
は自分の精神を落ちつける爲めと、今一つは會場の具合及び前講師の話の大體――  
―少くも後半――を聴いて置く必要があるからである。演壇並にテーブルが餘り  
に高過ぎたり、その他話の妨げになるやうな事を發見し、それが訂正され得るも  
のである場合は、司會者にその旨を通じて壇に立つ前に直ほして貰ふことがよ  
い。又前講師の話を知り會場の倦怠の具合を見て置くことは、話の切り出しや、  
話の短縮をする上に必要なことである。

最後に、講話せんとする話について十分の練習をすべきことは前に説いた通り  
であるが、これは是非必要なことである。

話のまくら 話のまくらとは、話の内容を序論、本論、結論の三に大別する  
ならば、この序論に相當するものを「まくら」と稱するのである。



この「まくら」の役目は色々あるが、その主なるものは、個々別々になつてゐる児童の精神を統一して、群集化し團體化せしめその話さんとする話に注意を集注せしむるにあるのである。而して、このまくらは大體三つの形式に分けることができる。第一は、前の話を引き受けて、その要點、若しくは、特に児童の興味を喚起した場所を取りてまくらとするもので、第二は、自分がこれより話さんとする内容に就いて、その豫備的知識を與ふる爲に、その話と類似のもの若しくは何等かの關係あるものを以てするか、第三は、この二者の何れにも屬せざる、全然色彩の異つたものを以つてし、児童の好奇心を唆り注意を集中せしむるものである。第一、第二の形式は最も普通に用ゐらるゝ形式であるが、第三は、會場が非常に亂れて居るといふ場合、又は倦怠を催して居る場合に用ゐて有效なものである。けれどもこれは大體の區分であるから實演の場合には、時に應じ所に依りて適宜になすべきである。而して此處に肝要なることは、児童の意表に出るといふ

事と、決して謙遜すべからざる事である。

先づ、普通の何事に於ても機先を制することは勝利を博する秘訣であるが、お話の場合、特にまくらに於て、児童の意表に出でその注意を集むるといふ事が必要である。例せば、長い話があつて児童は非常に倦怠してゐる後に立つた場合に「私は今度面白いお話をしませう」といふただけでは、面白いといふことを感得するよりも、児童は又長いお話かと想像して了ふ。依つて、これと反對に「唯今は大分長いお話を澤山聞きましたから、私は短いおもしろいお話をしませう」といふ風に出ると、児童は「ア、うまい」と安心して話を聞かうとする。これと同様に、悲しいお話の次ぎは面白い話、優美な話の次ぎは活潑なお話といふやうにするところが大切である。

次に、児童の前に立つた時は謙遜は禁物である。よく初心の人に見受ける所であるが「私はお話は初めて、そうして、お話が下手ですから……」又は「餘り考へ

て來ませんから面白いお話はできませんが我慢して聞いて下さい」といふやうな挨拶をする。児童の方では、新しい先生のお話といふので、好奇の眼を見張つて非常な期待を以つて迎へたにも拘らず、かやうな挨拶を聞くと落膽して了ふ。又児童は先生といふものは、偉いもの何でも知つてゐるものと信じてゐる。故に教師は児童の前には絶対の權威者であらねばならない。児童の前には謙遜は無意味のものであるばかりでなく寧ろ教化の效力を減ずるものである。教師は常に固き自信を有してゐることが必要である。而して、若し、真に何等の準備もなく些少の自信もなき時は寧ろ壇上に立つことを遠慮すべきで、習練と自信とを得た後に立つのが至當であらう。けれども自分は決して話の巧拙はその標準とすべきでなく、講師たり教師たるの自信の下に壇上に立つべきであるといふことを主張するものである。

### 話のくゝり

お話の最後のくゝりは極めて簡單がよい。吾人は自己の徹底を

児童に求めたがる結果、児童を意識化する傾きがある。依つて、お話がすんだ後「それですから……」と概念的教訓的の事を更に附け加ふる事が往々あるが、これは児童に取りては甚だ迷惑至極の事である。何となれば、児童の要求し聞かんとを熱望してゐるものは、話の具體的事實、話そのものであつて、従つてこれが児童に感動を與ふる所のものである、依つて實際上にありて、話の事實の終結がつくと児童は、すんだものとして手を拍つ。それに、「それだからして……」と概念的教訓的の事を話し續ける時は、児童は「何だ話がすんだのに」と、これを餘分なこととして耳を傾けない。否、これを餘りくどくしく續けてゐると、前に與へた感興までも消して了ふ。元來、童話は強ち教訓的たることを要しない。或は話全體として教訓の意味の含つて居るものもあり、又に全然ないものもある。然し、假令、教訓的分子が含まつてゐないとしても、彼が神秘の世界に遊び、又自然現象、活社會に於ける未知の知識が不知不識の間に養はれて行くうちに、廣義の教育が自然

と行はれてゐるのである。又彼等は、その話中の局部々々によりて、各々異つた或るものを握り、彼等自身のドグマを作るのである。依つて、童話には概括的、教訓的な事は必ずしも要しない。然し少々大きい児童に對し、又話の性質によりこれを概括する事を有効とする場合もある。依つて、教訓なり概括的のことをいはんとするならば、最後に入るよりも最初に入れた方がよい。それで、普通の場合では、「正直の正ちゃんはこのから大變えらくなりました」又は「私のお話はこれでおしまい」といふ風にして切つて了つた方がよい。若し高學年の児童に對しもう少し概括的にするならば「正直は成功の基であります」位に止めることがよいと思ふ。

**壇上のテーブル** お話の際に、テーブルを置くの可否といふことは實際家の間に議論がある。即ち、童話は話すと共に見せるべきものであるから、児童に、話を眞に活躍せしめんとするには、身體全部を露出するが可となし、その代り態度を非常に尊び脚部以下は動かさざる事を主張する人と、又態度は型に入つた様にするよりも自然を尊ぶべし、而して話中に脚部の見苦しきやうな身振りを隠匿する爲めと、且つ講師の威嚴を増さんが爲めにテーブルを置くを可とする人との二派がある。

それで吾人は何れを取るべきであるかといふに、自分はこの二者何れにも偏せざるがよいと思ふ。即ち幼兒に對し興味中心のお伽噺となす場合の如きは、テーブルなき方が確によいが、高學年の児童に對し堅いお話でもする場合にはこれを用ゐた方が有効である。又會場の具合に依つても同様な結論を得られるであらう。故に對象の程度、話の内容、會場の状態等により適宜に用ふべきであらうと思ふ。

唯々此處に注意すべきは、そのテーブルが餘りに高いものは絶対に用ゐざるを可とする。その高さは着帯の邊までの高さを限度としたい。又これと同時に、テ

附録 コドモの大会に就いて

「ブルを用ふる場合にあつても、その壇上に、花葬、盆栽を置くことは禁物である、尤も開會までは會場の氣分を賑はす爲に飾つて置くもよからうが、講話の際は除去した方がよい。これが爲に自體が隠匿するやうなことは、普通大人の講演にあつても禁物である。

その他、お話の仕方、及び注意事項は多々あるが、今は大體に止め、詳しいことを研究されんとさるゝ方には、岸邊福雄氏の「お伽噺の理論と實際」、下井春吉氏の「お噺の仕方」、山内藤馬氏の「話し方と聴かせ方」等の著書を照介して擱筆することとする。

(完)

大正十年七月七日印刷  
大正十年七月十日發行

兒童宗教々育の理論と實際

上製定價金貳  
並製定價金壹圓八拾錢



著者 鈴木積善

發行者 四恩報答會出版部

代表者 河原秀孝

印刷人 石川金太郎

印刷所 株式會社 秀英舍

發兌

東京市外西巢鴨町庚申塚

宗教大學社會事業研究室

賣捌所

東京市小石川區表町一〇五番  
振替東京一九八三番  
東京市神田區表猿樂町二番  
振替東京八二二六番

教報社  
京文社